

リアホナ

表紙の物語——
将来の母親を強める
16ページ

聖文をよく味わう
22ページ

断食献金とは何ですか？
「フレンド」10ページ

リアホナ



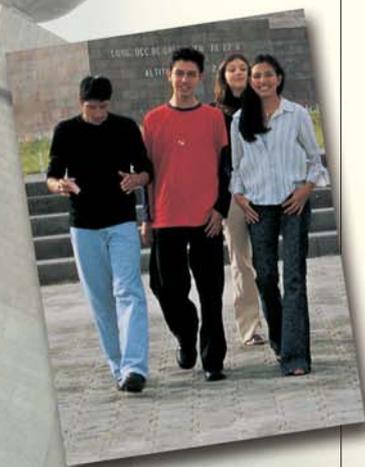
表紙

写真/スティーブ・バンダーソン、
写真はイメージです、
複写は禁じられています



「フレンド」表紙

「主の翼の下に」
ジェイ・ブライアント・ワード画、
フロリダ州ベニス、ミル・ボンド・プレス社、
ザ・ビジョン・オブ・フェイス・コレクション
(The Visions of Faith Collection)
から掲載、複写は禁じられています



「地球の真ん中で」
26ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——救い主による平安 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 16 将来の母親を強める 中央若い女性会長 スーザン・W・タナー
- 25 家庭訪問メッセージ——神殿の儀式と聖約が回復されたことを喜びとする
- 32 教義と聖約からのメッセージ——知恵の言葉に祝福されて 地域七十人 中野正之
- 34 家庭のタベ——すばらしい伝道的手段
- 38 家族を強める——生殖の神聖な力
- 40 大祭司定員会 七十人会長会 デビッド・E・ソレンセン
- 43 兄弟愛の炎 ラリーン・ポーター・ガント
- 44 末日聖徒の声
 - 什分の一とタイヤ サラ・ウェストブルック
 - 御霊の声を聴く マーク・パレーズ
 - 懐かしさを感じました マリナ・ペトロフ
- 48 読者からの便り

青少年

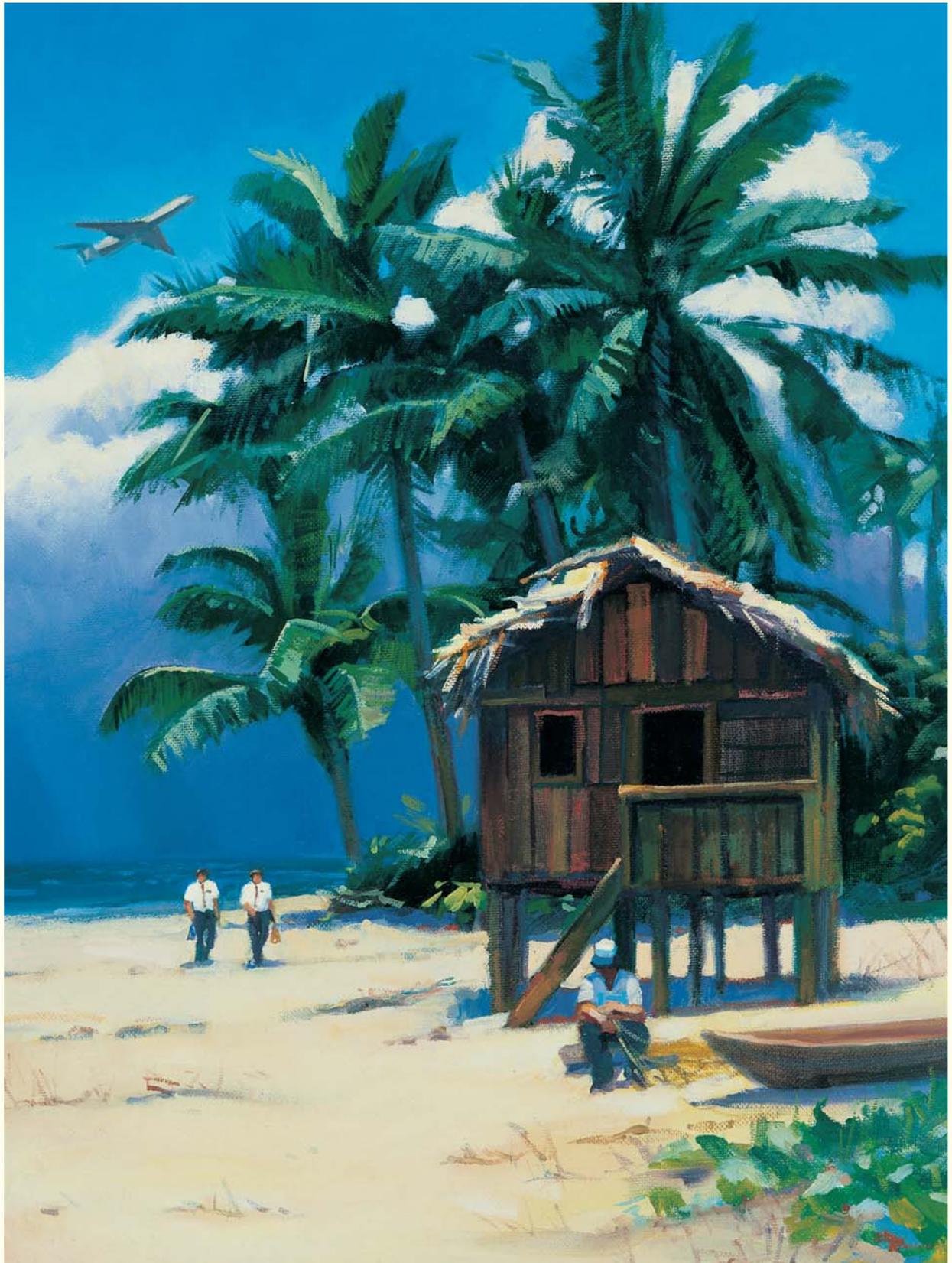
- 8 難しい決断をする 十二使徒定員会 リチャード・G・スコット
- 12 「伝道部長、宣教師の面接を受ける備えができました」
ウィリアム・D・オズワルド
- 15 ポスター——無料のフィルター機能
- 21 御存じでしたか？
- 22 質疑応答——どのようにしたら、個人の聖文学習を
より有意義なものにできるでしょうか。
- 26 地球の真ん中で マービン・K・ガードナー



「神殿の儀式と聖約が
回復されたことを
喜びとする」
25ページ参照

フレンド

- F2 預言者の声——興味深い家族の歴史 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- F4 分かち合いの時間——しんこうをもってしゅにしたいがいます
- F6 デビッド・O・マッケイだいかんちょうのしょうがいから——マッケイちょうろうのイノシシ
- F8 小さなお友だちへ——さくをこえる 七十人 ダリル・H・ガーン
- F10 ちいさなみんなのために——だんじきけんきんって何？ キンバリー・ウェブ
- F12 イエス・キリストをしんじるしんこう
- F13 おもちゃばこ——せんきょうしにあいさつしよう ロバート・ピーターソン
- F14 ハリケーンにおそわれた家 メロディー・ウォーニック



「海の島々に」マーク・ブエナー画

「わたしの教会の長老たちを、遠くにいるもろもろの国民に、海の島々に遣わしなさい。諸外国に遣わしなさい。
まず異邦人へ、次いでユダヤ人へと、すべての国民に呼びかけなさい。」

(教義と聖約133:8)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン
実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク
企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク
機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー
編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・ハトラ, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・ガント, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ポール・バツデンバーク, ジュリー・ワデル, キンバリー・ウェーブ

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・パン・カンペン
制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:cur-iahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タガログ語, タガログ語, タチチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マラヤラム語, マタガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines June 2005.

Japanese. 25986 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

June 2005 no. 6 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Postage Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

家庭の夕べのためのアイデア



「難しい決断をする」8ページ

ページ——これまでで最も難しかった決断について、家族に考えるように言います。リチャード・G・スコット

長老の仕事に関する話を読むか、話すかして聞かせてください。スコット長老が選択する際に、賛美歌はどう役立ったでしょうか。難しい決断を迫られたときに、主が助けてくださった経験を話すように家族に言います。

「伝道部長、宣教師の面接を受ける備えができました」12ページ

——ボーバは、伝道に備えるために何をしよう言われましたか。アルマ57:19-21, 25-27を読み、ヒラマンの若い兵士の模範とボーバや友人たちを比べてください。ボーバの模範にどのように従うことができるか、家族に尋ねてください。

「知恵の言葉に祝福されて」32ページ

——中野正之長老は、知恵の言葉を守りながらも仕事を続けることができました。中野長老はそのために何をしたのでしょうか。知恵の言葉を守るために、また家族が守れるよう助けるために、どんなことができるでしょうか。

「家庭の夕べ——すばらしい伝道的手段」34ページ

——家族の興味や必要に応じて、この記事から幾つかの話を紹介してください。家庭の夕べを伝道的手段にするアイデアを計画し、実行してください。

「興味深い家族の歴史」

F2ページ——最初の3段落を、声に出して読んでください。そして先祖や親族に関する話を順番にするように家族に言います。このときの話を記録してもよいでしょう。記事の最後の2段落を使って証^{あかし}をしてください。

「さくをこえる」F8ページ

——主に不従順であったときのことを考えるよう家族に言います。結果はどうなったでしょうか。スモーキーの話をしてください。従順の結果と不従順の結果を比べてください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略	
イエス・キリスト	聖文研究 22
. 2, F4, F12	選択の自由 8, 38
折り 26	備え 12, 16
癒し 44, F12	大祭司 40, 43
教えること 1	断食献金 F10
改宗, 改心 44	知恵の言葉 32
家族関係 16, 38	伝道活動
家族歴史 40, F2 8, 12, 34, F13
家庭の夕べ 1, 34	母親の務め 16, 21
家庭訪問 25	標準
逆境 2, 44 8, 15, 26, 32, 38
教会歴史 21	平安 2
自己訓練 15	奉仕 43, F14
指導性 21	ホームティーチング 7
従順 F8	マッケイ, デビッド・O F6
身分の一 44	守り 44, F14
純潔 38	模範 12
初等協会 F4	友情 26
信仰 F4, F12	靈感 44
神殿と神殿活動 25, 40	若い女性 16



救い主による 平安

第一副管長

トーマス・S・モンソン

何年か前、妻とわたしは、家族とともに、人気のあるテーマパークに行きました。あるアトラクションで、わたしたちは急流下りのボートに乗り込みました。絶叫とともに滝を真っ逆さまに滑り落ち、終着点を目がけて流れ込んで行くというものです。滝に落ちる寸前、壁に掛かった小さな看板に気づきました。そこには深遠な真実が書いてあったのです。「問題からは逃げられない。地の果てまでも追って来る。」

この短い言葉はわたしの心に残りました。それはその乗り物のテーマであるばかりか、現世の生涯にも当てはまる言葉なのです。

人生とは様々な経験をする学校のようなもので、試しの時期と言えます。苦難に耐え心痛を乗り越えることによって様々なことを学ぶのです。

すべての人に降りかかってくる病、事故、死をはじめとする様々な試練のことを考えるとき、わたしたちはいにしえのヨブと同様、「人〔は〕^{うま}生れて悩みを受ける」¹ ことを悟るのではないのでしょうか。ヨブは「^{まった}全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった」² 人でした。ヨブは信仰深く、物質的にも豊かでしたが、普通の人なら耐え切れない試練を受けなければなりません。財産をすべて失い、友に侮られ、苦痛にさいなまれ、家族まで失い、悲しみに胸

が張り裂けんばかりのヨブは、「神をのろって死になさい」³ と迫られました。しかしヨブはこの誘惑に抵抗し、気高い魂の奥底から、「見よ、……わたしの証人は天にある。わたしのために保証してくれる者は高い所にある」⁴ と宣言したのです。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる……。」⁵ こうしてヨブは信仰を貫きました。

苦痛や大きな試練がまったくなかったという人は、恐らく一人としていないでしょうし、人類史上、悩み、荒廃、苦難などがなかった時期はないと言ってもよいでしょう。

人生の厳しい局面に立つと、だれしも「なぜわたしが」という疑問を投げかけたくなるものです。自分ではどうすることもできないような苦境にあるときでさえ、人は自分を責めてしまいがちです。時折、苦境を、終わりのないトンネルや夜明けのない暗闇のように感じることもあります。また、心痛、夢がかなわないことから来る落胆、絶望に取り巻かれているようにも感じます。そして、聖書に記された言葉を口にします。「ギレアデに乳香」はないのか、と。⁶ こうして心は、疎外感、悲嘆、孤独でいっぱいになるのです。

絶望しているすべての人に、詩篇に記された次の約束を伝えたいと思います。「夜はよます



**いにしえのヨブと同様、
「わたしは
あなたを見放すことも、
見捨てることもしない」
という神の確証と
貴い約束によって、
霊的に高められます。**



エリヤが
ザレパテの
やめと
その息子とともに
した経験は、
「神の子供たちは、
神が語られたことに
従っていれば、
必ず正しい」という
真理を物語っています。

がら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。』⁷

人生の苦難に押しつぶされそうなときには、だれしも同様の苦難を経験し、耐え、乗り越えてきたことを思い起こしてください。

苦難はあらゆる人に際限なく訪れるものです。しばしば即座に解決する方法を見いだそうとするわたしたちは、苦難を乗り越えるには忍耐という美德を要することを忘れていたのです。

次のような試練のいずれかを、皆さんは経験しているかもしれません。

- 障害を持つ子供
- 愛する者の死
- 失業
- 世の中の進歩についていけないこと
- 不従順な息子や娘
- 精神的、情緒的な病気
- 事故
- 離婚
- 虐待
- 過剰債務

数え上げればきりがありません。現代の世界では、時折、あらゆる良い賜物^{たまもの}を下さる神はるか遠くにおられるのではないか、あるいは自分は神から完全に切り離されているのではないかと感じてしまう傾向があります。人生を独りで歩んでいることに不安を感じ、こう自問します。「一体どうすればいいのだろう。」究極の慰めをもたらしてくれるものは、福音なのです。

苦しく、枕を涙でぬらす病床にあって、霊的に高めてくれるのは、「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」という神の確証^{まこと}と貴い約束^{ちかひ}です。⁸

紆余曲折する現世の道を歩むとき、そのような慰めには、計り知れない価値があります。輝くしるしや大きな声を介して確信が得られることはまれです。むしろ、御霊^{みたま}の声は穏やかで静かで、心を高揚させ、魂に安らぎを与えてくれます。

苦難に遭遇しても主を疑わないようにするために、神の知恵は人には容易に理解できないこともある、ということ覚えておきましょう。しかしながら、わたしたちがこの世で学べる最も大切な教訓は、「人は神が語られたことに従っていれば、必ず正しい」ということなのです。

テシベ人エリヤの経験は、それが真理であることを物語っています。ひどい飢饉と干ばつに見舞われて、飢え、苦しみ、そして恐らくは死をも覚悟したときに、「主の言葉が彼に臨んで言った、『立って……ザレパテへ行って、そこに住みなさい。わたしはそのところのやめ女に命じてあなたを養わせよう。』」⁹

エリヤは主の言葉を疑いませんでした。「そこで彼は立ってザレパテへ行ったが、町の門に着いたとき、ひとりのやめ女が、その所でたきぎを拾っていた。彼はその女に声をかけて言った、『器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください。』

彼女が行って、それを持ってこようとした時、彼は彼女を呼んで言った、『手に一口のパンを持ってきてください。』

彼女は言った、『あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ2、3本を拾い、う

ちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。』

エリヤは彼女に言った、『恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ作って持ってきなさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。』

「主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない」とイスラエルの神、主が言われるからです。』¹⁰

この実現しそうなにもない約束を、彼女は疑いませんでした。「彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。

主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。』¹¹

ここで歴史のページを早めくりして、羊の群れの番をしていた羊飼いたちが聖なる宣言を聞いた特別な夜に場面を移しましょう。御使いはこう宣言しました。「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。』¹²

バツレヘムに幼子が誕生されたことによって、大きな祝福が注がれました。それは武器よりも強い力であり、カイザルの金貨よりも永続する富でした。こうして長い間予告されてきた約束が成就しました。幼子キリストがお生まれになったのです。

聖なる記録は、少年イエスが「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」ことを明らかにしています。¹³ そして、目立たない記述ですが、さらに成長したイエスは「よい働きを」されたことが記録されています。¹⁴

イエスの卓越した模範、人々を招くイエスの言葉、そしてイエスの数々の神聖な業に関する記録は、ナザレから長い年月を経て今日まで伝えられてきました。これらの記録は、苦しみを堪え忍ぶ力、悲しみに耐える力、死に直面する勇氣、人生に立ち向かう自信を与えてくれます。神の導きなしに、混乱と試練と不安定が渦巻く現在の世の中を生きていくことはできません。

ナザレ、カペナウム、エルサレム、そしてガリラヤで与えられた教えは、距離と時間という障害を乗り越え、理解の壁を突き破って、悩み苦しむ人々に光と道をもたらしています。

行く手にはゲツセマネの園とゴルゴタの丘が待っています。

聖書にはこう記されています。「それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、『わたしが向こうへ行って祈っている間、ここにす

わっていないさい。』

そしてペテロと〔ヤコブとヨハネ〕とを連れて行かれたが、悲しみを催した悩みははじめられた。

そのとき、彼らに言われた、『わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていないさい。』

そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた……。』¹⁵

『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』

そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。

イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。』¹⁶

世の罪を贖うためにイエスはどれほどの苦しみを受け、どれほどの犠牲をささげ、どれほどの苦悶を経験されたことでしょうか。

一人の詩人がわたしたちのために、次のような詩を詠んでいます。

自分が若く、全地が陽気で
歌の響きわたる常夏の島のように思えるとき
また、魂が喜び、心に光があつて
一点の陰りもなく感じるとき
夜空の下に何が隠れているかを
だれも知らない
人が皆行かなければならない園
ゲツセマネの園……

破れた夢で橋が架けられた
暗い小道の先
見知らぬ小川の向こうに
記憶の薄れた遠い歳月の陰に
涙でできた大きな池の向こうに
その園は存在する。どんなにもがいても
その園を避けて行くことはできない
昔も今も、この世のすべての道で
ゲツセマネを通らない道はない¹⁷

世の救い主のこの世における使命は急速にその終局を迎えようとしていました。行く手にはカルバリの十字架が置かれていました。神の御子の血に飢えた者たちは、そこで極悪非道な行為を犯しました。そのような人々に対してイエスは



デビッド・O・マッケイ
大管長は
こう記しています。

「これらの小さな墓標は
その下に幼子おきなごが
眠っていることを
示すだけでなく、
真理と命についての
永遠の原則に対する
母親の信仰と
献身の記念碑でもある
ことに気づきました。」

簡潔でありながらも深遠な祈りをもってこたえておられます。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」¹⁸

そして、終局が訪れました。「『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。』こう言って」¹⁹ 偉大な贖い主は亡くられました。イエスは墓に葬られました。そして、3日目の朝によみがえられました。主の弟子たちは救い主にお会いしました。この歴史上最も大いなる瞬間に発せられた次の言葉は、時という隔たりを超えて、今日もなお、わたしたちの心に慰めと確信いやりと約束を与えてくれます。「もうここにはおられない。……よみがえられたのである。」²⁰ こうして復活は、全人類にとって現実のものとなりました。

しばらく前、わたしはローレンス・M・ヒルトンから信仰あふれる手紙を受け取りました。揺るぎない信仰によって悲劇を乗り越えた物語を、その手紙から紹介します。

ローレンスの祖父トーマス・ヒルトンとその妻サラは1892年にサモアへ向かって旅立ちました。サモアに到着後、トーマスは伝道部長に任

命されました。このとき二人は生まれたばかりの娘を連れて行きました。そして、伝道中に二人の息子に恵まれました。不幸なことに3人の子供たちは全員サモアで亡くなりました。このようにして夫婦だけになってしまったヒルトン夫妻は、1895年に伝道を終えて帰国しました。

ヒルトン夫妻と親しかったデビッド・O・マッケイは、彼らが子供を失ったことを聞き、たいそう心を痛めました。1921年、各国の教会員を訪れる旅に出たマッケイ長老(当時、十二使徒定員会会員)は、サモアに立ち寄りました。マッケイ長老は各国へ旅立つ前に、3人の子供の墓を訪れることを、当時すでに夫を亡くしていたヒルトン姉妹に約束していました。サモアからヒルトン姉妹にあてて書き送ったマッケイ長老の手紙をここで紹介しましょう。

「親愛なるヒルトン姉妹、

1921年5月18日水曜日の夕方近くに、わたしたち一行5人はサモアに到着しました。背の高いココナツの木に覆われた山の頂上に日差しが注いでいました。わたしたちは、ファガリイ墓地の小さな墓の前で頭を垂れました。……覚

えておられるでしょうが、出発の前にお約束したとおり、墓地を訪れたのです。

墓所と墓標は傷むことなく残っています。……埋葬場所に巡らした石壁の外側から……墓標に刻まれた文字を書き写しましたので、御覧ください。

ジャネット・ヒルトン

誕生：1891年9月10日

死亡：1892年6月4日

『愛するジェニーここに眠る』

ジョージ・エメット・ヒルトン

誕生：1894年10月12日

死亡：1894年10月19日

『安らかに眠れ』

トーマス・ハロルド・ヒルトン

誕生：1892年9月21日

死亡：1894年3月17日

『この丘で憩え』

3つの小さな墓を見ている間、わたしはヒルトン姉妹が年若い母親としてここサモアで生活された日々を想像しました。そうしている間に、これらの小さな墓標はその下に幼子が眠っていることを示すだけでなく、真理と命についての永遠の原則に対する母親の信仰と献身の記念碑でもあることに気づきました。ヒルトン姉妹、眠っている3人の幼子は、30年近く前にお二人が始められた尊い伝道の業を、現在も静かに、雄々しく感動的に推し進めています。これからも、彼らの地上における最後の休息地を手入れする優しい人たちがいるかぎり、あなたの3人のお子さんたちは御業を続けることでしょう。

愛にあふれた手によって、彼らの目は閉じられました
愛にあふれた手によって、彼らの体はここに納められました
異国の人々の手によって、簡素な墓は飾られています
彼らの見知らぬ人々が彼らをたたえ、死を悼んでいます

トファ・ソイファ〔訳注——サモア語で「さようなら」の意〕
デビッド・O・マッケイ

この感動的な話は嘆き悲しむ人々に「人知ではとうてい測り知ることのできない……平安」を与えます。²¹

天の御父は生きておられます。主イエス・キリストはわたしたちの救い主であり贖い主です。主は預言者ジョセフを導かれました。そして現在の御自分の預言者であるゴードン・B・シンクレイ大管長を導いていらっしゃいます。これが真実であることを証します。

救い主がなさったように、悲しみに耐え、重荷を負い、恐れに立ち向かえるように祈っています。わたしは救い主が生きておられることを知っています。■

注

- | | |
|-----------------|---|
| 1. ヨブ5:7 | 13. ルカ2:52 |
| 2. ヨブ1:1 | 14. 使徒10:38 |
| 3. ヨブ2:9 | 15. マタイ26:36-39 |
| 4. ヨブ16:19 | 16. ルカ22:42-44 |
| 5. ヨブ19:25 | 17. エラ・ウィーラー・ウィルコックス、
“Gethsemane” アル・ブライアン
ト編, <i>Sourcebook of Poetry</i> ,
全3巻(1968年), 第2巻, 435 |
| 6. エレミヤ8:22 | 18. ルカ23:34 |
| 7. 詩篇30:5 | 19. ルカ23:46 |
| 8. ヨシュア1:5 | 20. マタイ28:6 |
| 9. 列王上17:8-9 | 21. ピリピ4:7 |
| 10. 列王上17:10-14 | |
| 11. 列王上17:15-16 | |
| 12. ルカ2:10-11 | |

ホームティーチャーへの提案

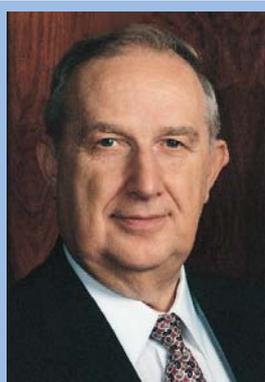
よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. この記事で黒丸印を付けて列挙されている試練を読む。訪問先の家族にこのリストにそのほかの試練を付け加えてもらう。その後、記事の最初の3段落を声に出して読み、次の質問をする。「一体どうすればいいのでしょうか。」モンソン副管長の引用した聖句や実話の中から一つかそれ以上採り上げて話し合い、この質問への答えを皆で考える。

2. 列王上17:8-16を、語り手、主、エリヤ、やもめの言葉に分かれて4人の人に声に出して読んでもらう。モンソン副管長は、この話からどんなことを学べると述べているだろうか。神への従順を通して生活に平安が得られた経験を紹介する。

3. ヒルトン夫妻に関する話とデビッド・O・マッケイ長老の手紙をともに読む。試練に耐え、平安を見いだせるよう救い主が助けてくださった経験を、家族に話してもらう。

難しい決断をする



常に正しいことを
行くと決意し、
その結果を待ちましょう。
正しい行いは、
常に最善の結果へと
つながります。

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット

たとえ犠牲や困難を伴うように思えても、主が望んでおられることを行うと、今決意してください。生涯にわたって主から靈感や導きを受けられるようにするためです。わたしは経験を通して、重要な場面での正しい選択が、全生涯に祝福をもたらすことを学んできました。皆さんが自信をもって常に正しい選択ができるようになることを切に望みながら、大切な教訓となった一つの経験を話しましょう。

主の祝福を受け始める

大学を卒業し、伝道に出て、結婚した後、わたしは妻とともに就職のために合衆国東部へ引っ越しました。今では不思議に思える様々な経験を経て、技術者としての仕事を得るための面接を受けたのです。それは潜水艦の原子力発電装置の設計と開発という、新しく非常に興味深い分野での仕事でした。思い返せば、その職を得ることはほとんど不可能のはずでした。もっと経験豊富な人たちが応募していたからです。しかし、わたしは主の助けのおかげでその仕事を得ることができました。

この経験から分かるように、主の導きに従って預言者が言うことを行うなら、主は生活を祝福してくださいます。わたしたちは勇気と信仰を働かせて、正しいことを選ばなければなりま

せん。たとえ周りの多くの人がそうしていなくても選ぶ必要があるのです。

その仕事で11年間の胸躍る日々を送った後、ある晩わたしは原子力発電装置に不可欠な部品の開発に向けて会議に参加していました。すると秘書が入って来て言いました。「男の方からお電話です。名前を伝えれば電話に出てくれるだろうとおしゃっていますが。」

わたしは尋ねました。「何という方ですか。」

秘書は言いました。「ハロルド・B・リーという方です。」

「その人の言うとおりで。」そして受話器を取りました。後に教会の大管長となったリー長老は、その晩会えないかと尋ねてきました。リー長老はニューヨーク市に、わたしはワシントンD.C.にいました。わたしは飛行機でリー長老に会いに行き、面接を受けました。そして伝道部長の召しを受けることになったのです。

わたしが働いていたプログラムの責任者はハイマン・リッコーバー提督といい、勤勉で仕事に大変厳しい人でした。リッコーバー提督のことをよく知っていたので、召しを受けたことをすぐ話すべきだと思いました。伝道の召しについて説明し、仕事を辞めなければならないことを話すと、提督はひどく立腹しました。暴言を吐き、机の上の書類入れをたたき割り、二つのことをはっきりと言いました。

「スコット、この防衛システムで君の役割はとて



つもなく重要で、後任を育てるには1年にかかる。辞めさせるわけにはいかない。次に、それでも辞めると言うなら、君はこの国の裏切り者だ。」
「残りの2か月で後任者を訓練できます。国に対する損害は少しもありません。」わたしはそう言いました。

会話はもうしばらく続きましたが、最後に提督が言いました。「君とはもう二度と話すまい。顔も見たくない。君はもう終わりだ。ここだけじゃない。原子力の分野でまた仕事をしようなどとは考えてみるな。」

わたしは答えました。「提督、わたしは任務から追放されてもかまいません。そして提督が妨げようとなさらないかぎり、この任務をほかの人にゆだねるつもりです。」

提督はその言葉どおり、わたしとは話さなくなりました。重要な決定をしなければならないときには使用者をよこしたり、第三者を介して話をしたりしました。そして提督は後任を任命し、わたしはその人を訓練しました。

わたしにとって難しい決断

職場を去るのは難しいことではありませんでした。なぜなら主がわたしを伝道部長に召されたことを知っていたからです。しかし、自分の決断がほかの人に影響を及ぼすことも知っていました。アイダホ州アイダホフォールズの地域には、原子力関連の事業に従事する教会員がたくさんいたのです。彼らに迷惑をかけたくはありませんでした。どうしたらよいのか分からず、心の中で問い続けて



いました。「うまく解決するのだろうか。それとも、この事業に関連した仕事で生計を立てている人が、不当に扱われることになるのだろうか。」

そのことについて祈り、熟考していたときに、「正しかれ」という賛美歌の一節が心に浮かびました。「正しかれ、結果を神にゆだねよ。」またその賛美歌の別の箇所も心に強く響きました。「神は守る、義をなせ。」(『賛美歌』151番、英文から和訳)

職場での最後の日、わたしは提督との面会を希望しました。秘書は驚きました。1冊のモルモン書を持って部屋に入ると、提督はわたしを見て言いました。「座りたまえ、スコット。何の用だね。わたしは君に辞職を撤回させるためにあらゆる方法を使ってきた。君が持っているのは何だ。」それからわたしたちは、非常に興味深く穏やかな会話をしました。今回は前よりも耳を傾けてくれました。

提督はモルモン書を読んでみようと言ってくれました。それから思いもしないことが起きました。彼はこう言ったのです。「伝道から戻ったら電話してくれ。頼みたい仕事があるだろうから。」

あなたにとって難しい決断

青少年の皆さんは、人生を通して試練に遭い、難しい決断に迫られることでしょう。若い男性にとっての最初の難しい決断は、宣教師になるかどうかを決めることかもしれません。しかし、これはさほど問題ではありません。主は伝道が特権であり義務であると述べておられるからです。ですから皆さんに必要なのは、宣教師として奉仕するのにふさわしい生活を送り、主の教え、特に回復のメッセージをよく理解することです。そして私心をなくして主に仕えるなら多くの人の生活を祝福できることを知る必要があるのです。

わたしは伝道部長として、すばらしい成長の機会を与えられた若い男性と女性を見てきました。彼らは人々の生活に豊かな祝福をもたらす一方で、自分たちも著しい成長を遂げていました。伝道活動を楽しめる宣教師というのは、聖文をよく学び、福音の教えを自分のものになっている人です。

難しい決断をすることで、10代の若者にとって魅力的

と思える事柄を進んであきらめる宣教師に、主は奉仕の機会を与え、後にはすばらしい伴侶との結婚という祝福を授けてくださいます。そして自制と勤勉さ、主への信頼のゆえに、卓越した神の僕となるのです。その多くは教会の指導者となり、職業においても傑出した人物となります。

あなたの益のために

常に正しいことを行うと決意し、その結果を待ちましょう。正しい行いは、常に最善の結果へとつながります。長い目で見ると、正しいことを選び、困難なことから始めるのが最も簡単な方法であることが分かるはずです。一度自分の足もとを固めたら、引き続き正しいことを選ぶのはさほど難しいことではありません。

わたしは正しいことを選んだときには、たとえ厳しい批判を受けたとしても、決して後悔したことはありません。その

真理を学ぶとき、皆さんは一つのことを知るでしょう。つまり、もし従順であるならば、何をしたらよいかを靈感によって知り、それを行う能力が与えられるのです。

わたしは心からの愛を込めて、主の標準を守ることを決意するよう皆さんにお願いします。聖霊の導きを受けることで、常に正しいことが行えるような生活をしてください。そして皆さんのふさわしい望みや、それ以上にすばらしい祝福が皆さんのものとなると証します。

天の御父とその愛する御子は皆さんを愛しておられ、皆さんが今の自分では想像もつかないほど幸福になることを望んでおられます。戒めを守るために常に最善を尽くすなら、御二方は皆さんがその幸福を得られるよう助けてくださいます。■

この記事の一部は、「正しかれ」【リアホナ】2001年3月号、10-17から抜粋しました。

伝道に出ることを決意する

イサイ・リモン・トーレス

幼いころ、家族や初等協会の先生から「大きくなったら伝道に行くの」とよく尋ねられました。わたしはいつも「はい」と答えていました。12歳になると、執事の職に聖任されました。そして指導者は、もう7年もたてば伝道しているころだね、と言うようになりました。けれどもそれは遠い先のように思えました。

教師の職に聖任されると、伝道のこととはもっと言われるようになりました。そして祭司に聖任されると、さらに言われるようになったのです。わたしは次第に心配になってきました。あと3年しかなかったからです。

伝道に出ることはすばらしいと思っていました。伝道に出た兄たちもいます。でも、2年間も家族と離れて、遠い場所に行くことを考えると、恐ろしくなりました。そして気づいたのです。伝道に出るのを恐れているのは、伝道に出たいという強い望みが無いからでした。

姉のフランシスカに悩みを打ち明け

ました。すると姉は横に座って言ったのです。「イサイ、言いたいことは分かるわ。言いたいことは二つだけ。まず伝道中は、もし神の栄光にひたすら目を向けるならば、100パーセントいつでも御霊を受けることができるの。そして2番目に、伝道に出たいという望みがもっと強くなるように祈ること。主は助けてくださるわ。」

わたしは姉の勧めに従い、伝道に出たいという望みが強くなるように祈り始めました。

2000年4月6日はわたしにとって決意の日でした。ホームティーチングの同僚が伝道地へ旅立ったからです。空港まで見送りに行き、彼が飛行機に乗り込むのを見たとき、自分も同じことをするのだという強い気持ちを抱きました。でもそれは恐れではなく、安らぎでした。そしてこの気持ちが祈りの答えであると確信したのです。主が伝道に出るよう望んでおられるのが分かりました。この日から、19歳で伝道に



出ようという強い望みを持つようになりました。

わたしはカリフォルニア州サンノゼ伝道部で働くように召され、つい最近帰還したところです。そこで2年間は人生で最良の時でした。

家族から遠く離れていましたが、つらいときや助けが必要なときには、いつでも主の御霊が慰めと助けを与えてくれました。そして天の御父とイエス・キリストをさらによく知り、愛するようになりました。モルモン書は真実であると確信をもって言うことができます。生ける預言者と回復についての証は増し、自分が仕える人たちをもっと愛せるようになりました。また異言の賜物が確かにあることを学びました。英語で話したり教えたりできるようになったからです。

大きな犠牲だと思っていたことが、人生で最もすばらしい祝福となったのです。■

イサイ・リモン・トーレスは、メキシコ・マタモロスステーク、マタモロス第1ワードの会員です。

「伝道部長、 宣教師の面接を受ける 備えができました」



中央日曜学校第二副会長
ウィリアム・D・オズワルド

伝道部長を
務めていたとき、
驚くようなことが
ありました。
執事の少年が
伝道に出るための
申請に来たのです。

□ シアのウラジオストックで伝道部長を務めていたころのことですが、少し驚くようなことがありました。日曜日に執務室で資料を集めていると、13歳の少年ウラジミールがドアをノックしました。友達からポーバと呼ばれている、ウラジオストック第1支部の執事です。今、話をしてもよいか、と聞かれました。オルガ・ブヤチェスラフナ・ドラグノバ姉妹も一緒でした。ポーバは英語が堪能なオルガに、通訳になってくれるよう依頼していました。ポーバは英語がまったく話せず、わたしはロシア語を少ししか話せません。

ポーバは孤児でした。口蓋裂こうがいれつのために生まれてすぐに置き去りにされたのです。跡が残っているものの、この生まれつきの障害はすでに治療されています。ポーバはすばらしい女性に引き取られ、実の息子のように大切に育てられました。いつも幸せそうです。聖餐せいさんを配るとき、ポーバは顔に笑みをたたえ、とてもすてきな表情をしています。これまで会った少年たちと同様に、執事の役割をよく果たしています。いつも、福音が真実であるこ

とを、心に残る簡潔な言葉で証あかししてくれます。ポーバはあらゆる点で模範的な執事です。

執務室を訪れたポーバはロシア語で話をし、オルガ姉妹が通訳をしました。「ポーバは専任宣教師になるための申請書を記入しに来たんです」とオルガ姉妹は言いました。わたしは笑いそうになるのをこらえつつ、「ポーバは今何歳ですか」と尋ねました。

姉妹に尋ねてもらおうと、ポーバは答えました。「もう少しで14歳になります。」

わたしは平静を保って言いました。「19歳にならなければ伝道に行けないことを、彼は理解していますか。」

オルガ姉妹は答えました。「はい。ただ、申請が間に合わないと思うのです。」

わたしは、宣教師申請書をモスクワ経由でソルトレーク・シティーに郵送するまでには、まだまだ時間は十分にあると保証しました。また、支部長もわたしも、ポーバが申請書に記入すべき時期を忘れてはしないと説明しました。わたしは、ロシア・ウラジオストック伝道部に働いている44人の宣教師の写真がはってある壁の方に歩み寄ってから、こう言いました。「それに、もし13歳の少年を宣教師に推薦したことが分かったら、申請書は戻って来てしまうでしょう。」



5年間
この若い
執事が
伝道に出る備えを
している間に、
ほかにも2,000人の
ロシアの執事が
彼のように
宣教師になる備えを
していたとしたら、
どのようなことが
起こるでしょうか。

ポーバと話をしたその部屋は、宣教師と面接をする際に使用していました。わたしは、ポーバが19歳になったときに受ける質問を、彼の今の伝道へのふさわしさを測るために行うことは適切だと考えました。そのことをポーバに説明した後、彼が伝道部の専任宣教師の一人であるかのように、ふさわしさを確認するすべての質問をしました。ただ、異性との交際に関する質問は彼にはまだ早いと考え、省略しました。オルガ姉妹に気恥ずかしい思いをさせたくなかったからでもあります。

ポーバはすべての質問に、年齢をはるかに上回る賢明さをもって、的確に答えました。できすぎた返答に、きっと伝道部長に聞かれそうな質問を長老のだれかに前もって尋ねていたのだらうと思います。わたしはポーバに、半年ごとにここで面接を行うことを提案しました。

すると、「半年後に何と言って面接をお願いすればよいでしょうか」と心配して尋ねてきました。わたしはオルガ姉妹を通して言いました。「いいかい、これは初めての英語の授業だよ。」そしてゆっくりと発音しました。「こう言ってくれればいからね。『伝道部長、宣教師の面接を受ける備えができました。』」

ポーバは、覚えなければならないこの重要な言葉を、3度繰り返しました。

面接の終わりに、ポーバはオルガ姉妹に、最後に伝道部長に質問してくれるよう頼みました。「伝道部長、伝道に出るためにどのような準備をすればよいか教えてください。」

この言葉には、いささか舌を巻きました。伝道部にいる成熟した長老たちの中でさえ、これほどの的を射た質問をする知恵を持ち合わせた者はあまりいないでしょう。少しの間よく考え、3つのことを行うように言いました。「第1に、毎日聖文を読むこと。第2に毎朝毎晩、天の御父に祈ること、第3に英語を勉強すること。」

最後の提案は、多少自分勝手であったと白状します。ポーバと英語で会話をすることができたらどんなに楽しいだろうか、ポーバの心の中にあることを尋ねられたらどんなにいいだろうか、そう考えたのです。わたしは、宣教師が教えている無料英会話に参加するよう提案しました。しかし彼の母親は、暗くなってからの外出は許してくれないだろう、とのことでした。それで、学校の英語の授業で、毎日一生懸命勉強するということになりました。

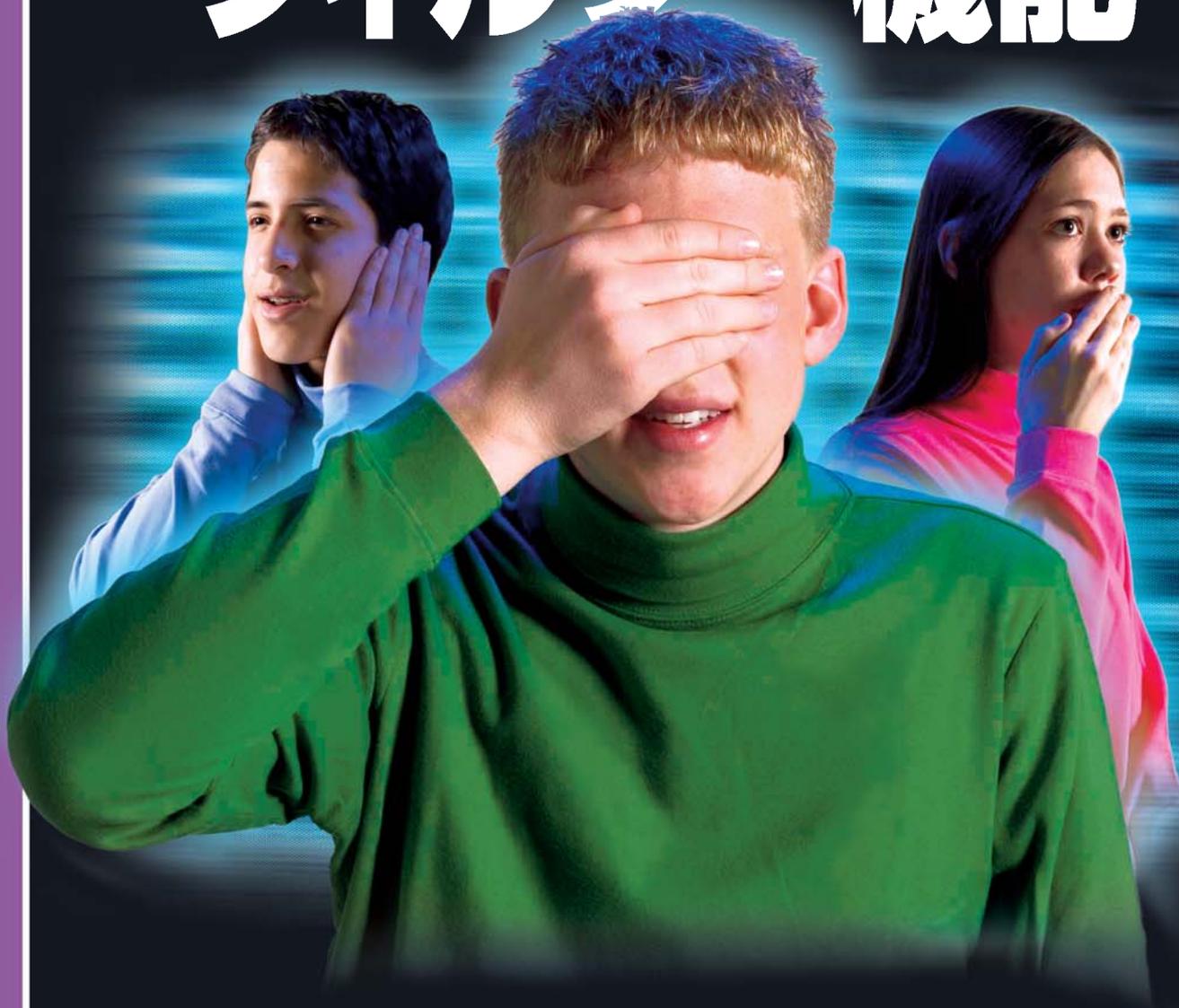
後日、教会の集会後に廊下で執事の少年たちに会いました。わたしはポーバに、面接依頼の際に必要な例の言葉を暗唱してもらいました。ポーバは上手に言えました。するととても驚いたことに、支部のほかの執事たちもこの「魔法の言葉」を言えるようになっていたのです。一人ずつ、わたしをまっすぐに見詰めて言いました。「伝道部長、宣教師の面接を受ける備えができました。」

何という模範の力でしょうか。口を開き、学んだことを分かち合いたいと望む者のこの喜びこそ、伝道部の宣教師たちみんなに味わってもらいたい喜びでした。このロシアの執事たちは、完成への道を歩んでいたのです。

わたしは自分の机に向かい、考えました。ポーバが19歳になり伝道に出る備えを終えるまでの5年間、ほかにも2,000人もいるロシアの執事たちもポーバのように宣教師になる備えをしたとしたら、この広大なロシアの地での伝道活動はどれほど効果的に推し進められるでしょうか。もちろん、その答えはアルマ書第57章にあります。ヒラマンという名の預言者が2,000人の若者を導き、彼らとともに奇跡を成し遂げることができたのです。この若者たちは、母親の教えにより、偉大な信仰と献身を身に付けていました（21節参照）。

将来、この若い兵士のような宣教師として赴任するポーバを迎える伝道部長は、何と祝福されていることでしょうか。■

無料の フィルター機能



自己訓練——それは、悪いものを見たり、聞いたり、
繰り返し思い浮かべたりするのを防ぐ、唯一確かな方法です。
(モーサヤ4:30参照)

将来の母親を 強める



中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

若い女性が
すばらしい妻、母親、
主婦になりたいという
望みを持つように
鼓舞しなければ
なりません。

数年前、夫とわたしは総大会で印象に残ったことを子供たちに尋ねました。すると当時16歳だった娘が喜び勇んで言いました。「すばらしかったわ！ 靈感を受けた知的な預言者や指導者が、母性を擁護するのを聞いたのはすばらしかったわ。」それから娘は、母親になるということが人生における大きな不安の一つだったと告白しました。「母親になることについては、家のほかどこも教えてくれるところはないわ。セミナーでも若い女性でも、もちろん学校でもね。」

ほかの少女も皆、娘と同じような経験をしているのかどうか分かりませんが、恐らく似たような状況にあると推測できます。ここしばらく、女性が母性の美德を称賛し、若い女性が母親になりたいという願いを表現することは、あまり好まれていませんでした。

少し前に、初めて会う20人ほどのローレルの若い女性と話をしたとき、特にそのような印象を強く受けました。目標は何かと尋ねると、博士号の取得など、まず学業上の目標が幾つか挙がりました。伝道に出たいという少女も何人かいました。いずれも価値ある目標です。ついに一人の少女が、気後れした様子で母親になりたいと言いました。そして数人がほかの目標を挙げた後、もう一人が母親になりたいと言うと、全員がそれに同意したのです。考えを自由に述べられる場であったにもかかわらず、母親になりたいと望んでいることを正直に話すこと

は、最初の二人の少女にとってとても勇気が必要でした。

母親になるという目標は、口に出すと冷やかされるかもしれませんし、言った本人が物足りないと思うのかもしれません。また、自分の思いどおりに達成できる目標ではないので、皆の前で言うことにためらいもあるのでしょう。母親には無私な精神が求められますし、多くの魅力的な目標をわきに置く必要もあるでしょう。わたしは若い女性が直面する数々の問題についても心配していますが、永遠の原則を教える必要性を痛感しています。

わたしは母性を支持し、新しく若い女性のテーマに追加された「家庭と家族を強め[る]……備えができるようになる」という言葉について話します。そして、わたしたちが親や指導者として、若い女性のために取り組むべき5つの事柄についてお伝えします。

1. 今の自分の家庭と家族を強める方法を若い女性に教えなければならない。

すべての家庭は、それが理想的であっても問題を抱えていても、励ましを必要としています。十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老はこう述べています。「ほかの家庭には何の問題も障害もないと思っている人がいるとすれ

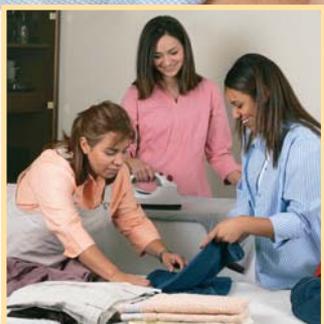
若い女性が家族に奉仕し、家族との
きずなをはぐくむよう励まされなければ
なりません。

ば、それはほかの家庭の事情をよく知らないだけです。』¹ 少女たちが自分の母親と父親に心を向け、両親に助けてもらっただけでなく、自分たちも両親を助けられるよう励ます必要があります。

中央管理会の中には、教会にさほど熱心でない親のもとで育った人もいます。その中の一人は、青少年のときにある若い女性の指導者からアドバイスを受けました。それは、家族が日曜日に娯楽活動を行うときは家族とともに過ごして、その中で自分の標準を保つようにしてみたらどうかというものでした。そこで彼女は、家族が日曜日にプールに行くときは一緒について行き、自分は

泳ぎませんでしたが、家族とおしゃべりをしながら時間を過ごしました。そのようにして家族との間に思いやり深い関係を築くことができたのです。

ある若い女性は、弟が悪い仲間とつきあうのをつらい思いで見っていました。ある晩、弟のために熱心に祈ると、弟が参加しているパーティー会場まで迎えに行くようにという促しを感じ、そのとおりに行きました。そして一緒にしばらくドライブをしながら、弟が家族の大切な一員であること、また天の御父の家族の一員であることを話し、





家 事の技能は
すばらしい
ものであり、
物質的な面だけでなく
霊的にも役立つことを、
若い女性に教える
必要があります。
家庭を居心地のよい
場所とするなら、
家族は
家庭で過ごしたいと
望むようになり、
御霊を招き入れやすい
環境を作るのに
役立つでしょう。

そのような自分を大切にする責任があると伝えられたのです。彼女が示した愛によって、弟は人生を良い方へ変えることができました。

青少年はしばしば、社会的また霊的に孤独である、あるいは孤立していると思うことがあります。きょうだいとの友情や強いきずなは、そのような感情を克服するための最良の治療薬です。10代のある少女は、学校で仲間外れにされました。しかし、きょうだいが自分たちの活動に誘ったり、普段にも増して愛を示してくれたりしたおかげで悲しみは和らいだのです。

これらはすべて、家庭や家族を強めた若い女性の例です。家族のために尽くすことは、神との聖約を守る一つの方法です。そして聖約を守るならば、生活に御霊が注がれるという、約束された祝福を受けることができるのです。どのような家庭環境にあっても、若い女性が家庭と家族を強めるために今できることから始めるよう助ける必要があります。

2. 将来の家庭にとって祝福となるために、物質的にも霊的にも役立つ技能を身に付けるよう若い女性を備えなければならない。

若い女性を霊的に備える方法の一つは、この世で必要とされる技能や才能を身に付けるよう助けることです。主にとっては、すべてが霊にかかわるものであることを、わたしたちは知っています(教義と聖約29:34参照)。

家事に必要な技能は、あまり重視されなくなってきました。実に心配です。社会から主婦がいなくなれば、絶望感、麻薬、不道德、自尊心の欠如など、路上生活者と同じような問題を抱えた心のよりどころのない人々が増えることでしょう。『アメリカの家族』(The Family in

America)という書籍の中で、ブライス・クリステンセンはこう述べています。「路上で生活を送る人々の数は、アメリカ全土のホームレスの数を表しているわけではありません。ホーム(家庭)という言葉は、いつから単なる建物を指すようになったのでしょうか。またホームレスという言葉は、いつから単に家がない人のことを意味するようになったのでしょうか。……家庭とは単なる建物ではなく、情緒的なきずなや、安心感、帰属感を[指す]ものです。また、単に雨露をしのぐ場所を意味するのではなく、結婚という不変のきずな、親の務め、家族の義務によって清められた場所を意味します。そこは犠牲と献身が求められますが、温かく受け入れられ、大切に扱われることが約束された場所です。』²

ですから、料理、裁縫、家計管理、家を美しく整えること、といった実用的な技術を含む、家事の技能をぜひ教えなければなりません。家事の技能はすばらしいものであり、物質的な面だけでなく霊的にも役立つことを、若い女性に教える必要があります。家庭を居心地のよい場所とするなら、家族は家庭で過ごしたいと望むようになり、御霊を招き入れやすい環境を作るのに役立つでしょう。

日曜のレッスン、ミューチャル、『成長するわたし』のプログラムは、いずれも先に述べた必要な技能を教える時間と方法を提供するものです。ローレルのアドバイザーを務めたときの経験を思い出します。わたしが受け持った若い女性は、1年後に親もとを離れていくことになっていました。わたしは自立するためにどのような備えをする必要があると思うか尋ねました。そして家計の管理や、大学の入学手続き、就職活動、クッキー以外の料理の作り方など、彼女たちが挙げたリストに基づいて、ミューチャルの活動を一緒に計画したのです。出席率を心配する必要はまったくありませんでした。わたしたちが学んでいた技術は、若い女性が将来重要な役割を果たすために必要なものだったからです。物質的な技能を学んでいくうちに、霊的な技能も同時に身に付いていることが分かりました。そして純粋な友情と思いやりがはぐくまれました。また、若い女性が新しく学んだ技能を家庭で実

践したことにより、母親たちから家庭内の霊的な雰囲気が高められたという報告を受けました。

これこそ両親や指導者が行うべきことです。わたしたちは若い女性が実用的な技能と霊的な技能を伸ばすよう助けなければなりません。これらの技能は、彼女たちが将来築く家庭に祝福をもたらすでしょう。

3. 若い女性がすばらしい妻、母親、主婦になりたいという望みを持つように鼓舞しなければならない。

若い女性を鼓舞する二つの力強いツールは、わたしたち自身の模範と誠実な言葉です。

これまで靈感に満ちた若い女性の指導者を多く見てきました。彼女たちは高潔さと喜びをもって自分の役割を模範的に果たしていました。わたしがローレルにいたころのアドバイザーの模範は力強いものでした。ご主人は教会にあまり活発ではありませんでしたが、教会の教えの中で忠実に子供たちを育てていました。また、ある若い女性は、両親が教会に来ていませんでした。感受性が豊かで学習意欲に満ちていた彼女は、教会指導者の模範から多くを学びました。そして教師と一緒に活動に参加する中で、断食の方法や家庭の夕べを開く方法を学んだのです。

家事や育児から得られる喜びを身近でいちばん教えてくれたのは母でした。母は日に何度も、母親であり主婦であることの喜びを話してくれました。その言葉は生活の隅々に表れていました。母は洗濯物をたたみながら歌を口ずさみ、きれいに磨き上げたばかりの浴室の清潔な香りを楽しんでいました。また、読み書きや縫い物、料理、そして愛と奉仕を教えてくれました。母は、愛、喜び、平和、柔和、忍耐、自制といった御霊の実で満たされていたため、わたしはそれを感じ、自分の人生も同じもので満たしたいと望みました(ガラテヤ5:22-23参照)。わたしは母の模範から日々学び続けています。

わたしが母親、妻、主婦であることに感じている大きな喜びを、皆さんにも知ってほしいと思います。わたしたちは言葉や行い、そして表情にこの喜びを頻繁に表すべきです。

模範と誠実な言葉によって、自分が妻、母親、主婦であることから得た喜びを、若い女性も見いだせるよう助けることができます。

4. 家族と家族の価値をないがしろにする世の中に立ち向かう勇気を持てるよう若い女性を助けなければならない。

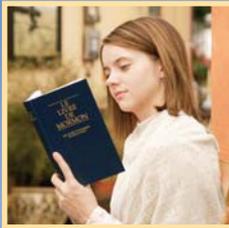
昨今の家族に対するサタン^{どうせい}の猛烈な攻撃には不安にさせられます。世の中は、同性愛、墮胎、同棲、離婚、不道德、暴力であふれています。

しかし不安を感じてはいても、恐れてはいません。恐れは信仰とは反対のものです。パウロはテモテに教えました。「神がわたしたちに下さったのは、^{おく}臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」(2テモテ1:7)

わたしはイエス・キリストを信じ、イエスがこの地上に回復された福音を信じています。そして「家族——世界への宣言」に簡潔に述べられた福音の真理は、わたしを力づけてくれます。「家族——世界への宣言」は、先ほど述べたそれぞれの問題だけでなく、そのほか多くの事柄について教会の見解を明らかにしています。例えばこう記されています。

同性愛——「性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって^{ひつす}必須の特性なのです。……





**福音に対する
力強い証と
永遠の
教義に関する
確固とした知識を
持つことによって、
教会の若い女性は、
家族をないがしろにする
世の中に
敢然と立ち向かう
勇気を得ることでしょう。**

……またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」

墮胎——「わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。」

同棲——「男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。」

離婚——「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。」

不道徳——「わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々……は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。」

暴力——「わたしたちは警告します。……伴侶や子供を虐待する人々……は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。」³

これらの真理はわたしを力づけてくれるだけでなく、賢明ですべてを御存じである天の御父に愛されていると感じさせてくれます。御父はこの教会を導く預言者と使徒を遣わすことで、わたしたちを祝福してくださいました。若い女性が天の御父の愛を知り、福音が真実であることをはっきりと感じるなら、心に恐れを抱くことはありません。福音に対する力強い証と永遠の教義に関する確固とした知識を持つことによって、教会の若い女性は、家族をないがしろにする世の中に敢然と立ち向かう勇気を得ることでしょう。

5. 母親に託された永遠の責任と特権を強調し、現世で子供をもうける機会を得るかどうかにかかわらず、だれもが家庭を築き、子供たちに影響を及ぼすことになると若い女性が理解できるように助けなければならない。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、世界中の神の女性の力強い影響力についてこう述べています。「この末日における教会の驚くべき発展の多くは、世の立派な(優れた霊性を備えている)女性たちが、大勢この教会に入ってくるおかげであると言えるでしょう。このことは、教会の女性が義にかなったはじめのある生活をし、良い意味で世の女性たちから区別され、違った者として見られるときに現実となって現れることでしょう。」⁴

わたしたちは良い意味で区別され、異なっています。なぜなら永遠の存在としての自分を知っているからです。皆が母親となり子供を育てるといふ女性の役割を神から託されているのです。

いとこのキャリアは、幸福で、寛容で、愛にあふれる独身

女性のすばらしい模範でした。交わるすべての人に祝福を与えました。30代後半で自動車事故のため亡くなりましたが、早すぎる死に見舞われる直前まで、おいとめい一人一人のためにスクラップブックを作っていました。キャリアは与えられた機会をできるかぎり活用して自分の使命を果たしたのです。

若い女性のすばらしい指導者である皆さんにお伝えします。皆さんが御霊を通して、物事をどのように簡素にしたらよいか知ることができますように。すなわち、貴重な時間を重要なことのために費やすのです。原則と教義を教えてください。愛を示し、良い模範となってください。できるだけ簡潔で魅力的なレッスンを行ってください。

指導者として若い女性のために現在行っていることは、世を救うために非常に重要です。しかし、永遠の召しを果たすために行っていることは、もっと重要です。わたしたちには、妻、母親、主婦としての召しも与えられているのです。この永遠の召しを果たすうえで、わたしたちは主の御霊がともにあるようお願いする必要があります。預言者が預言しているように、家庭は最後にして唯一の避け所です。どうか模範的な指導者となってください。しかし、家庭での責任を決してないがしろにしないでください。

親としての責任は何と大きなものなのでしょう。また指導者としての役割は何と重要なものなのでしょう。義にかなった将来の神の女性を育てるために適切な訓練を施すことは、決しておろそかにできない責務です。わたしたちが携わっている業が神の業であることを知っています。そして、主の器となって働くすばらしい特権が皆に与えられていることを感謝しています。■

この話は、2004年3月の若い女性オープンハウスでの話を基に書かれました。

注

- 「どのように子供の心に残る親か」『聖徒の道』1994年1月号, 10
- “HomeLess America: What the Disappearance of the American Homemaker Really Means” *The Family in America*, 2003年1月, www.profam.org/pub/fia/xfia_1701.htm
- 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
- 「義なる女性の役割」『聖徒の道』1980年3月号, 142-143参照

御存じでしたか？

それは6月の出来事でした。

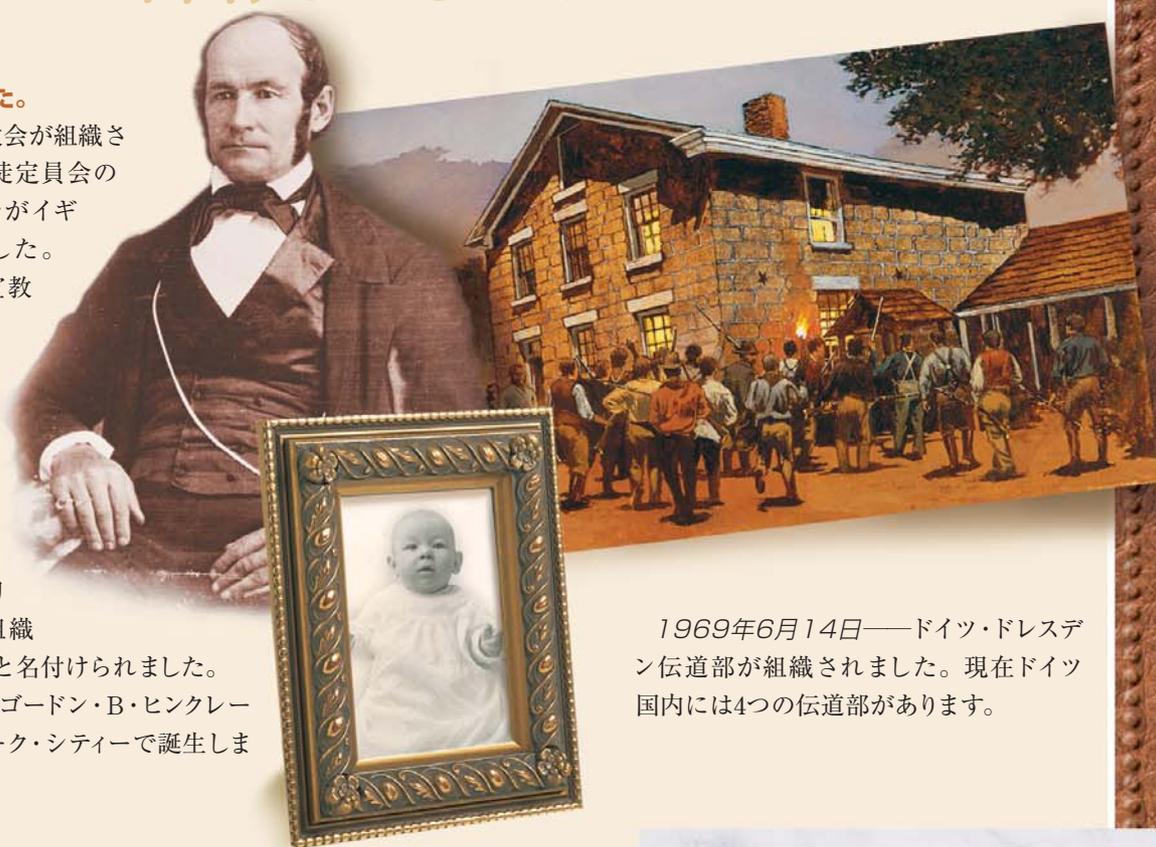
1837年6月4日——教会が組織されてから7年後、十二使徒定員会のヒーバー・C・キンボールがイギリスに伝道に召されました。海外に召された最初の宣教師です。

1844年6月27日——預言者ジョセフ・スミスと兄のハイラムが、暴徒の手によってカーセージの監獄で殺されました。

1895年6月9日——アメリカ合衆国外で最初のステーキがカナダで組織

され、アルバータステーキと名付けられました。

1910年6月23日——ゴードン・B・ヒンクレー大管長がユタ州ソルトレーク・シティで誕生しました。



1969年6月14日——ドイツ・ドレスデン伝道部が組織されました。現在ドイツ国内には4つの伝道部があります。



指導者へのヒント

「救い主は指導の原則に関して包括的で簡潔な方法を自ら示してくださいました。『イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。』』(マタイ4:19) 指導者は自ら喜んで行おうとしないことを他人に要求してはなりません。救い主の模範に従うことが最も安全な道であり、教会の大管長である預言者に耳を傾け、その指示に従うことが、わたしたちの身を守ることになるのです。」

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
「これらの者をわが統治者となさん」
『聖徒の道』1981年4月号, 65

上からヒーバー・C・キンボールの写真。「カーセージの監獄の暴徒」ウィリアム・モーガン画。幼いゴードン・B・ヒンクレーの写真。足の写真/クリスティーナ・スミス。ジェームズ・E・ファウストの写真/ブラス・フォトグラフィ社

役割を交替した状態で、母親たちが12歳以上の若い女性には本人のやりたいことをさせるべきだと論じると、逆に若い女性たちは、それなりの制限を設けるべきだと反論しました。

また母と娘のデュエットも披露され、続いて若い女性たちとその母親の双方が母親の務めについて発表をしました。

ニュージーランド・フランクリン市のヘザー・マロニー市長も討論会の審査員を務めました。市長は、公の場で討論を行った母親と若い女性たちの勇気をたたえるとともに、少女たちの高い標準と価値観、そして母親を尊ぶ姿勢に感謝の言葉を述べました。

入れ替わった母と娘

1日だけお母さんと役割を交替してみてもはどうでしょう。それを実践したのがニュージーランドのマニレバとプキコーヒの若い女性たちで、相手の立場になりきって役割交替討論会という活動を行いました。



質疑応答

「毎日聖文を読むようにしていますが、あまり多くを学んでいないように思います。どのようにしたら、個人の聖文学習をより有意義なものにできるでしょうか。」

『リアホナ』からの提案

すでに聖文を読む習慣があるのは素晴らしいことです。表面的な読み方ではなく、さらに霊的な養いを求めたければ、次のことを行ってみてはどうでしょうか。

まず「キリストの言葉をよく味わう」ことです(2ニーファイ32:3)。読む前に必ず、聖文が与えられていることを主に感謝して、御霊から教えと証あかしを受ける準備をしましょう。それから真剣に読み始めます。ニーファイ第一書から読まなければならないという決まりはありません。第三ニーファイの第11章を開き、救い主がニーファイの民を訪れられたときの出来事から読み始めてもよいのです。あるいは教義と聖約第133章から読み始め、再臨に備えるにはどうしたらよいかを学ぶこともできます。または『項目別ガイド』[英文](Topical Guide, 英語版の聖典に掲載されている)や『聖句ガイド』を開き、希望や悔い改めなど、関心のあるテーマについて学ぶこともできます。

第2に、新しい章を学習するときには、最初に物語の内容を把握するように読むとよいでしょう。登場人物がだれで、どこにいるのか、そして何について話しているのかを確認します。次に、福音の教えを探しながら再び読み深めます。さらに自分が抱えている問題、疑問、

毎日聖文を学習するなら、御霊の安らかな影響力をはじめ多くの祝福がもたらされます。

毎日決まった時間を取り、主の言葉を味わいましょう。

関心のあるテーマについて学習し、自問し、主旨を深く考え、脚注を確認しましょう。

読む前に祈りましょう。

教えを生活に当てはめ、学んだことを実践しましょう。

関心事などに当てはまる教訓を見つけます。例えば、ニーファイ人とレーマン人の戦いについて読んだ場合、悪から身を守ることにいつて何を学び取ることができるでしょうか。

第3に、手もとにノートを置き、以下の問いの答えを書き留めながら読むのも良い方法です。「だれが、だれに、なぜ、どこで、いつ話しているのだろうか。」さらに自分の証、考え、疑問、今後の学習課題なども書き留めます。

第4に、理解しにくい聖句にぶつかったときにも決してあきらめないことです。理解できるように祈りましょう。両親、教会の指導者、セミナーの教師に質問しましょう。聖典に載っている資料、特に『項目別ガイド』[英文](Topical Guide)や『聖句ガイド』を活用しましょう。聖句に付いている脚注には参照聖句、同義語、説明が示されています。教会配送センターで取り扱っている『真理を守る』[英文](True to the Faith, 日本語版は2005年刊行予定)は、主題ごとに学習するのに役立ちます。

最後に、毎日静かな時間を確保し、聖文を学習しましょう。神の言葉を学習することを最優先します。宿題をしたり小説を読んだりするのは、後回しにしましょう。毎日の聖文学習によって、慰めと靈感が与えられ、平安という祝福が得られます。生活に御霊を招き、誘惑に打ち勝



写真/ジョン・ルーク、写真はイメージです

つ力が与えられます。様々な事柄について主がどのように考えておられるかを学ぶにつれ、より良い決断ができるようになります。また、聖文から真理を学ぶことができます。そして学んだ真理を最も必要とするときに、御霊が思い出させてくれるようになります。

聖文学習の時間を、預言者と会うための約束の時間と考えましょう。あるときは司令官モロナイと会います。次の日はモーセに会います。預言者を待たせたままにしないでください。預言者たちはあなたに多くのことを伝えたのです。

読者からの提案



まず初めに祈り、読んでいる間に天の御父の御霊がともにあるように求めます。そうすれば聖文を深く理解し、より多くを学べる

ようになります。

サモア・パゴパゴ・マブサガステーク

メセバ第2ワード

リチア・A・トゥアニウ, 18歳

聖文を読む前に、理解できるように主の助けを願いましょう。それでも理解しに

くい場合は、監督や日曜学校の会長などに助けを求めてみましょう。章ごとに聖文を説明しているセミナーやインスティテュートの教材もあります。最も重要なことは、読むのをやめないことです。

フランス・リールステーク

ムスクロンワード

ギヨーム・デラットル, 18歳

日々の聖文学習を有意義にするために、現実を抱えている問題や、疑問に思っているテーマについて調べています。そうすれば、読んだ内容を自分の現状に当てはめることが簡単になります。

ユタ州スパニッシュフォーク東ステーク
メドーラーク第1ワード
キャムロン・リー, 17歳

聖文を読むとは、内容を理解し、深く考え、学んだことを実践するという段階をすべて含んでいると思います。学んだことを実践するならば、ただ単に読むだけよりも、ずっと有益です。

ガーナ・ケープコーストステーク, アブラワード
フェリックス・エウジ, 17歳



熱心に調べ、深く考え、読む前に祈ることによって、聖文学習を充実させています。御霊を招いて、理解できるように助けてもらいます。聖なる御霊によってすべてのことの真理

を知ることができます(モロナイ10:5参照)。

フィリピン・オサミス地方部, シティー支部
ソニー・ネルソン・C・ヤップ・ジュニア, 16歳

聖文を読むときにセミナリーのテキストを参照します。当時の政治的背景や、注意すべき事柄が示されているからです。また興味深い事柄が詳しく説明されています。セミナリーのテキストのおかげで、聖文学習が充実したものになっています。

ブラジル・サンパウロ・タボアンステーク
ジャルディムタボアンワード
ラモン・アレクサンドレ・デ・オリベラ, 16歳



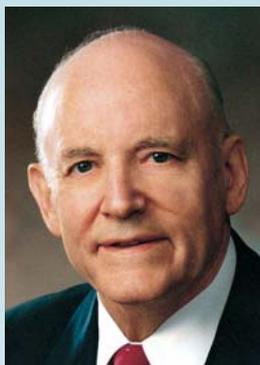
聖文を読み始めたばかりのころは、内容が理解できませんでした。両親は、まず1章読んで、祈るように勧めてくれました。一つの章の内容について深く考え、その後、実際の生活

に当てはめるよう努力しています。

ロシア・ロストフナドヌー伝道部, シャクティー支部
エカテリーナ・トゥファノワ, 12歳

毎日欠かさず読みましょう。聖句がさらによく理解できるように、読む前に御霊がともにあるよう祈ってください。わたしのセミナリーの先生は「脚注を用いずに読むのは、学習とは言いません。それはただの読書です」と言いました。

ペンシルベニア州スクラントンステーク
ナザレワード
ジュリー・ダンフォード, 15歳



「聖文は、毎日何章読むかを決めるより、毎日何分読むかを決める方がよいと思います。時には、わずか1節に全部の時間を使ってしまうこともあるからです。」

大管長
ハワード・W・ハンター
(1907-1995年)
「聖典を読む」
『聖徒の道』1980年3月号,
88参照

いつも理解できるわけではありませんが、何度も読み返しています。読む前と後に祈り、内容が理解でき、実践できるように、主に願い求めています。また、学んだことを人に話すようにしています。

ブラジル・ベロオリゾンステーク
バンディランテスワード
マリリア・ロドリゲス・デ・オリベラ, 18歳



伝道前は聖文学習の時間を取ることが困難でした。そこで、毎晩必ず30分から1時間は聖文学習をするという目標を立てました。良い学習習慣を身に付けたことは、伝道で大いに役立っています。

ブラジル・ブラジリア伝道部
テラー・ハウスリー長老, 21歳

今では、自問しながら読むことが習慣になっています。答えを探し、それについて深く考え、気持ちを書き留め、祈りによって聖文学習を終えます。そして、見つけた答えを生活に当てはめています。

アイダホ州ブラックフットステーク
ローズ第2ワード
ケーリー・ポーター, 17歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて、2005年7月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください

あて先——Questions and Answers 7/05
50 East North Temple Street, Floor 24
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——cur-liahona-imag@ldschurch.org

質問

「別の宗教を信じている友人にモルモン書を紹介したいと思っています。良い方法を教えてください。」 ■

神殿の儀式と聖約が 回復されたことを喜びとする



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勤めてください。

教義と聖約124:40, 42 — 「わたしの名のためにこの家を建てて、わたしがそこで民に儀式を示すことができるようにしなさい。……わたしはこの家に関するすべてのこと……をわたしの僕ジョセフに示そう。」

なぜ神殿での礼拝を喜びとするのでしょうか。

第一副管長 ジョージ・Q・キャノン(1827-1901年) — 「すべての神殿は、……地上でのサタン力を弱め、神の力と神性の力を増し加えます。また、わたしたちのために強大な力で諸天を動かし、永遠の神々の祝福が人類に注がれるよう呼び求めるのです。」(Millennial Star, 1877年11月12日付, 743)

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー — 「贖い主がすべての人のために御自身の命を身代わりとして与え、それによって救い主となられたように、わたしたちも神殿で代理の働きを行うとき、わずかながら、幕の向こう側にいる人々を救う者となるのです。彼らは、地上にいる人々によって自分たちのために何かがなされないかぎり、前進できないからです。……わたしは皆さんにこの祝福された特権をもっと十分に

生かすようお勧めします。それによって皆さんの性質は精練されるでしょう。わたしたちを覆っている利己心の殻がはがれ落ちるでしょう。生活に文字どおりに聖めの力がもたらされ……でしょう。」「(結びの言葉『リアホナ』2004年11月号, 105)

儀式と聖約を理解することは、喜びを見いだすうえでどのように助けとなるのでしょうか。

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン — 「聖約とは約束であることを覚えていなければなりません。神と交わす聖約は、人を拘束するものではなく、守るものと見なすべきです。神との聖約はわたしたちを危険から守ってくれるのです。……神の御心に添わないものをすべて拒むとき、価値あるものを失うことは決してなく、永遠の命を得た人のみが知る栄光を与られます。神殿の聖約を守ることは、人の能力を抑圧するものではなく、広げるものです。自己の思考や能力の及ばない場所へと、わたしたちを引き上げてくれます。」(“Prepare for Blessings of the Temple” Ensign, 2002年3月号, 21)

中央扶助協会第二副会長 アン・C・ピンダリー — 「夫とわたしは、管理していた伝道部で最も遠い

地域に向かっていた。神殿推薦状を発行するために……面接を行うことになっていたのです。全員の面接を終え、夫とわたしはジャングルの砂道を車で戻り始めました。そのとき、ある光景に息をのみました。……二人の姉妹がまだ歩き続けていたのです。村まで往復18マイル(約29キロ)の道のりを、二人は歩いて来たのでした。使う特権にあずかれるかさえも分からない神殿推薦状を得るために、二人はそうしたのです。彼女らをはじめとするナイジェリアの聖徒たちは、ハワード・W・ハンター大管長の次の勧告を信じていました。『神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員が有効な神殿推薦状の発行を受けるふさわしさを身に付け、また推薦状を所持するならば、主はお喜びになるでしょう。』(「はるかに望み見て」『リアホナ』2003年11月号, 13) ■



地球の真ん中で

エクアドルの青少年は
様々なものの真ん中で
生活することを楽しんでいます。
例えばこの地球です。
福音は、10代の彼らが
救い主を中心とした生活を
送るうえで助けとなっています。

マービン・K・ガードナー
教会機関誌

右ページ——
キトにある
ミタデルムンド(世界の
中心)の碑を訪れる。

左から——
フオン・トパール、
クリスチャン・リサーノ、
ディアナ・フロレス、
サリア・モヤ、
ルイス・ミゲル・メサ、
アレハンドロ・フロレス、
マリア・アレハンドラ・
カベサ・デ・ヴァカ、
イバネッサ・ロメロ

世界の真ん中に住むというのはどの
ような感じなのでしょう。北極と
南極までの距離が同じで、そこに
立てば片方の足は北半球に、もう片方の足は
南半球に置ける場所です。自分があらゆるこ
との中心にいて、全世界の注目を浴びている
と思いはじめのかもしれませんが。

しかし、南アメリカにあるエクアドルの赤
道近くに住む10代の末日聖徒は、あらゆる物
事のほんとうの中心はイエス・キリストであ
ることを知っています。そしてその両足はこ
の世の側ではなく、いつも主の側にあります。

キトの青少年の強さ

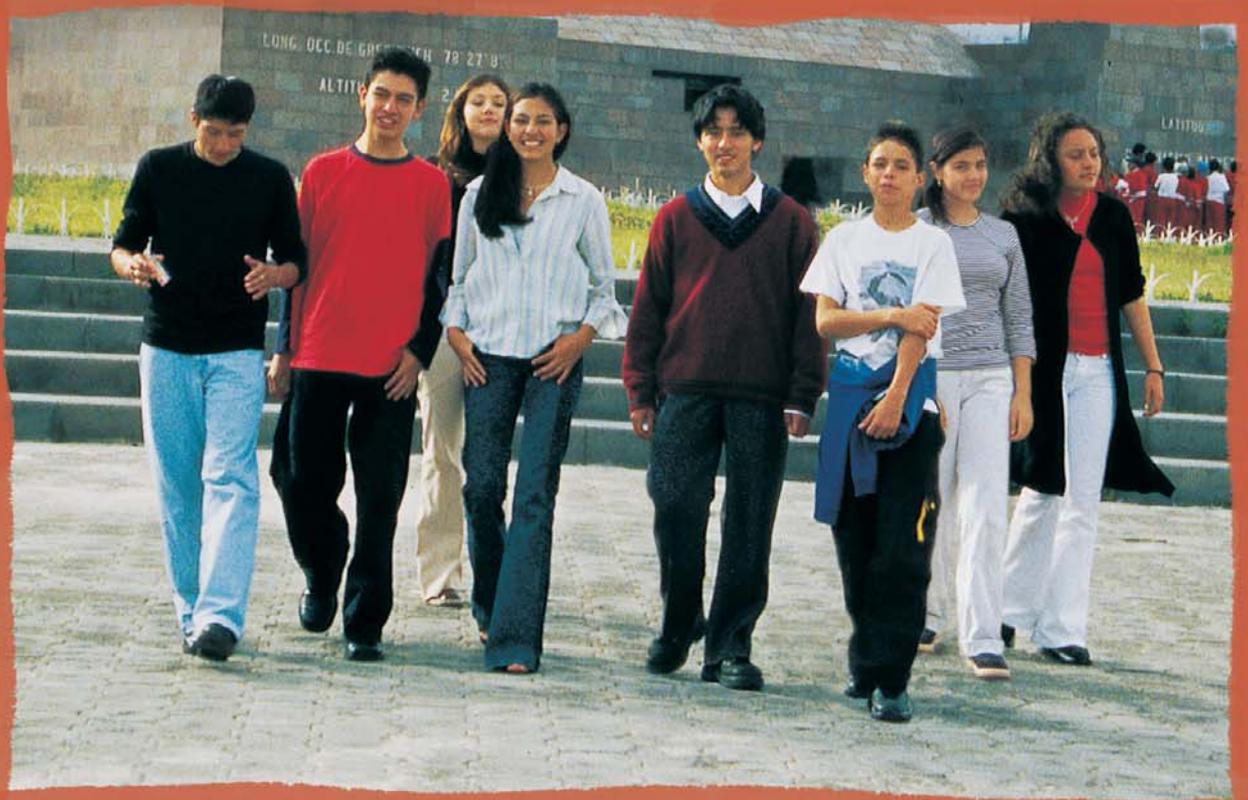
首都キトには、植民地時代の古い建物から

近代的な高層建築まで、少しずつですが何で
もそろっています。交通量の多い道路を障害
物を避けながら進むのはなかなか大変で、そ
れはちょうど危険な誘惑の間を縫いながら人
生を送っていくのと似ています。多くの10代の
青少年にとって、『若人の強さのために』は人
生の地図となっています。

『『若人の強さのために』の慎み深い服装
をするようにと書いてある箇所に感謝してい
ます。』こう話すのは、12歳のマリア・アレハ
ンドラ・カベサ・デ・ヴァカです。「この間学
校で、何でも好きな服を着て行っている日があ
ったんです。でも、慎みのない服を着て来
た友達が何人かいて、嫌な気持ちになりました。
その中の一人に、『あした、すぐ役に立
つものを持って来てあげる』と言って、『若人
の強さのために』を1冊上げました。友達は
それを読んで、『書いてあることは正しいと
思ったから、これから慎みのない服は着たく
ない』と言ってくれました。福音から得てい
るものを人に伝えるのはすばらしいことで
す。世の人もわたしたちが学んでいる善いも
のに触れることができるからです。」

13歳のアレハンドロ・フロレスは、知ること
だけでなく行うことの大切さを知りました。
「先週の日曜日に祖母から、家庭の夕べで『若
人の強さのために』を使って服装の標準につ
いてレッスンをしてほしいと言われました。」

赤道上に位置するにぎやかな町キトの青少年は、
人生で正しい選択をするうえで
福音が助けになることさ
知っています。



もう独りではない

キトに住む17歳のフオン・トパールはこう言います。「長い間、ぼくは友達に引きずられてばかりで、両親ともうまくいっていませんでした。でも、両親やきょうだいの信頼をなくしたら孤独になることが分かりました。今朝、監督の面接を受けてきました。父が監督をしています。今ぼくは、父よりすばらしい友達はいないと言うことができます。父をととも愛しています。ぼくにとって最高の模範です。」



ぼくもいとこたちも、今どきのファッションを追うのが当たり前になっていたのです、そのテーマでレッスンをするのは気が進みませんでした。でも今では、いとこもぼくも、ましな服装をするようになりました。」アレハンドロのレッスンと模範は、いとこたちをある重大な事柄へと備えさせました。アレハンドロは言います。「その子たち、来週バプテスマを受けるんです!」

14歳のクリスチャン・リサノにとって、『若人の強さのために』の中でいちばん大切なテーマが奉仕です。クリスチャンはこう言います。「たとえバスの中で席を譲るような簡単なことでも、奉仕を行うことがぼくたちの標準でなければなりません。小さなことが教会員について多くを語ってくれます。」

15歳のイバネッサ・ロメロは、友達と同じように悪い言葉を使い始めたとき、言葉遣いを改めなければならぬと思いました。そこである日、友達に言いました。「これから悪い言葉を使った人に1ペニー払ってもらおうからね。」そして数日後、何と4ドルも集めたのです。「イバはそのうち大金持ちになるよ」と友達は言いました。『若人の強さのために』を使って、イバネッサは言葉遣いを正すように友達を励ました。「みんな良くなってきています」と彼女は言います。その間、イバネッサは模範についてあることを学びました。「友達は光となる良い模範を求めていることが分かりました。わたしたちの一つ一つの小さな言動は人に影響を与えるんです。」

15歳のサリア・モヤは、一人の若い女性と友達になりました。この友人は、自分も家族も無神論者だと言っていました、サリアの普段の行いと、非難を浴びながらもその姿勢を崩そうとしないサリアをすばらしいと思っていました。二人は福音について何度も話し合い、サリアはモルモン書を渡しました。また、ともに祈り、一緒に教会に行きました。「昨日彼女は若い女性の活動に来てくれて、一緒に賛美歌を歌いました。」サリアはこう言います。「その後で、『わたし神様を信じるわ』と言ってくれたんです。友人が自分の模範を通して天のお父様を見いだせたことを知りました。」

17歳のルイス・ミゲル・メサは、ここ数年、高校に入ったときから仲が良い友人たちとの間に距離ができたと感じるようになりました。ルイスは言います。「友達は喫煙や飲酒をするようになって、ぼくにも同じことをするよう強く勧めます。随分非難されて、強くならなければいけませんでした。」ルイスは『若人の強さのために』の中で友達を慎重に選ぶことについて書かれた箇所を祈りをもって研究しました。「そのうち、飲酒や喫煙をしない人で、ぼくが

**オタバロの教会にて。前列(左から)——
ラウラ・コルドバ、ヘニフェール・サンタクルス、
タミア・モレタ。後列——サシャ・マルドナド、
ダビド・タビ、イエスス・ルイス、アルマンド・
アレリャノ、ヨランダ・サンティリヤン。
右——若い女性のピンを誇らしげに着ける
ヘニフェール**



守っている規範を大切に思ってくれる人たちと友達になるチャンスができました。昔の友達とは今でも会いますし、声もかけ合います。でもぼくが喜んで犠牲を払ったので、天父は助けてくださいました。」

「これまではただ習慣として正しいことをしていました。」そう話すのは17歳のラケル・アロンソです。「教会員の家庭に育ち、正しいことを選択するように教えられていたので、正しいことをしていたのです。でも、自分ではっきり分かってそうしていたわけではありません。ある日、母と話をしていたとき、主の御霊を強く

オタバロは
ほかの大都市よりも静かですが、
抱えている問題は同じです。



感じました。」ラケルの母親は、若いときに払った大きな犠牲について娘に話しました。父親の意思に反しても福音に従い、伝道に出たのです。「母は、今自分が幸せでいられるのは、これまでずっと救い主の近くにいて、主に助けを求めてきたからだと言いました。そのとき、わたしの証はそれまでになく強くなりました。わたしは神の子供です。そして、天のお父様はわたしを愛してくださっています。たとえ何一つうまくいなくてもお父様は助けてくださいます。」

オタバロにおける祈りの力

オタバロ盆地での生活は、キトほど騒々しいものではありません。オタバロに住む大勢の末日聖徒は、世界中で販売する商品を作るために、美しい布を織り、刺繍を施しています。多くの人が手作業です。オタバロではほとんどの人が家庭ではキチュア語を話し、外ではスペイン語を話しています。教会へ行くのに1時間、あるいはもっと歩く人もたくさんいます。青少年は学校では制服を着ますが、教会へは伝統衣装を誇らしげに着て行きます。

ここでの生活は比較的穏やかかもしれませんが、問題は同じようにあります。若い男性と若い女性は、主に近くある

には大変な努力が要ることを知っています。その大変な努力を払うことによって、祈りの力を学んできました。

12歳のヘニフェール・サンタクルスはこう言います。「母が失業したとき、早く仕事が見つかるよう祈りました。主は祈りを聞いてくださって、1日か2日のうちに、良い仕事が見つかりました。」

13歳のタミア・モレタがこれまでいちばん熱心に祈ったのは、母親の出産が大変だったときでしょう。タミアはこう言います。「わたしは祈りました。すると天のお父様は祈りにこたえてくださったのです。帝王切開でしたが、弟は今では1歳になって、母とともに元気です。」

15歳のラウラ・コルドバは、まだ10歳になる前に証を求めて祈りました。ラウラはこう言います。「周りの人たちが、モルモン書と教会は真実です、と言うのを聞きました。それで、わたしも自分で知ることができるように祈りました。すると主は証を与えてくださったのです。」

15歳のサシャ・マルドナドは、家が豪雨で浸水したときの恐ろしい体験を忘れません。家族で必死になって家財道具を守ろうとしていると、きょうだいの一人がお祈りをしようと言いました。「水の中でひざまずいて、天のお父様に助けを祈り求めました。すると2、3分後に雨がやみ始めたのです。お父様は祈りを聞いてくださいました。お父様に頼るなら、不可能なことは何もありません。」

ささいなことでも祈りは助けになります。14歳のイエス・ルイスは機織りはたおをしているときに、よく主に助けを求めると言います。「はくは時々織り込む模様のパターンを忘れることがあります。そんなときは主に助けを求めます。主はいつも助けてくださいます。」

学校の勉強でも同じです。16歳のアルマンド・アレリャノはこう話します。「学校でテストがあるとき、覚えたことを思い出せるように天父に助けを求めます。天父は、ほくが勉強したことを思い出せるようにして下さいます。」

17歳のヨランダ・サンティリヤンは、これまでで最も熱心に祈ったのは、「いつの日か家族と神殿に行って結び固められる」よう祈ったときだったと言います。「天のお父様は祈りにこたえて下さいました。わたしたちは神殿に行ったのです。これでいつも一緒にいることができます。」

神殿に行けるように標準を守って生活するのは大変なことです。けれども17歳のダビド・タビは、祈りを通して、周りのプレッシャーにうまく対処することができました。「同級生はたばこも吸うし、お酒も飲むし、悪いことは何でもするんです。それで、ほくにも仲間に入るよういつも誘ってきます。でもほくは気に留めないで、ほかに友達を見つけるようにしています。同じクラスにもう一人教会員がいて、お互いに助け合っています。」

グアヤキルで友達を見つける

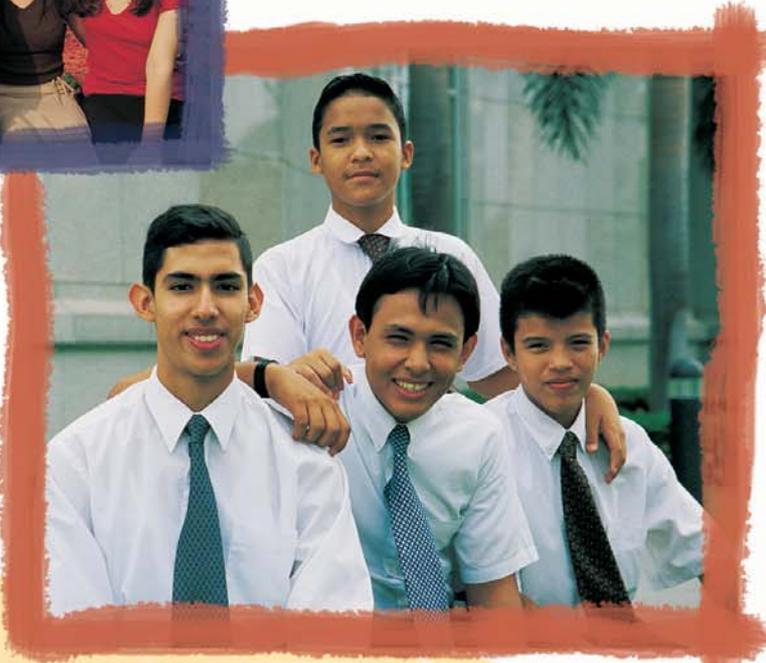
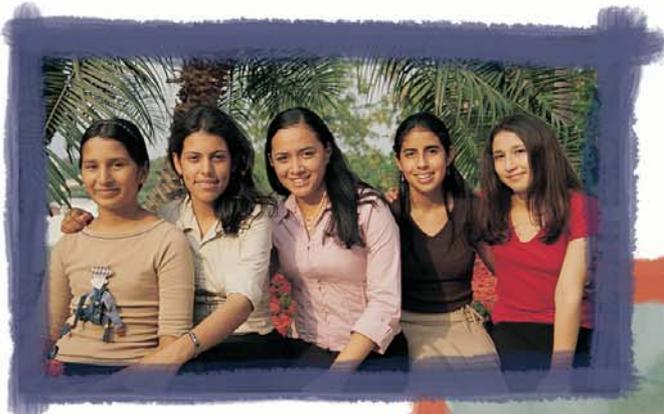
グアヤキルは活気に満ちた港町です。新しくできた美しい神殿は、夜になると明々と輝き、町の一角を見下ろしています。ここを訪れた人が受けるもう一つの明るい光が、10代の青少年の温かい友情です。彼らは、励ましが必要な人ならだれにでも友情の手を差し伸べます。

17歳のガブリエラ・アギーレは、グアヤキルに引っ越して来たばかりのころ、独りぼっちだと感じていました。「知っている人はだれもいなくて、学校ではみんなと距離があるよう

に思えたので悲しかったんです。でも、教会で友達を見つけました。教会には14人の若い女性がいて、みんな一致しています。若い男性とも仲良しです。わたしの親友は教会の友達です。」ガブリエラはそう言います。

16歳のタチアナ・アラルコンはこう言います。「みんなの結束が固いので、若い男性と若い女性が集まるとすばらしい経験ができます。友達以上の存在で、兄弟姉妹のようです。一人一人を大切に思っています。」

友情を必要としている人たちにも



グアヤキル神殿の敷地内で。左上(左から)——カテリネ・エスパーニャ、タチアナ・アラルコン、エステファニーア・ゴメス、グリマネサ・ロルダン、ガブリエラ・アギーレ。上——オルメド・ロルダン、ハレド・リベラ(後列)、アレックス・アランシビア、ホセ・オリバレス。

美しい神殿は、
にぎやかな港町のグアヤキルに住む青少年が
道を外れないように
助けてくれます。

手を差し伸べます。最近では老人の施設を訪問しました。「キリストの純粋な愛を心から感じることができました。」タチアナはそう言います。「愛を示して、歌を歌ったら、喜んでくれました。今度いつ来るのかと尋ねられました。」

恵まれない子供たちのために開いたパーティーでは、「子供たちは活動やプレゼントを喜んでくれました」と14歳のカタリネ・エスパーニャは言います。

「わたしたちは集まってパーティーを開いたり、活動やダンスをしたりするのが大好きです。」17歳のエステファニア・ゴメスはそう言います。「主の業を行うためにも集まります。監督は、何人もの青少年をワード宣教師に召しました。わたしの同僚は妹で、新しい改宗者や、あまり活発でない会員を力づけています。宣教師が10代の子供のいる家族を教えるときは、協力を求めてきます。わたしたちはその家族を訪問して仲良くなり、活動に招待します。教会に来るときにはもう友達ができているんです。」

青少年が少ないワードでも、若い男性と若い女性は人々に手を差し伸べています。14歳のホセ・オリバレスはこう言います。「ワードで活発な若い男性はほくだけです。そのため、教会に来ていない若い男性を訪問するときには、長老定員会の兄弟と一緒にいきます。」

13歳のハド・リベラは次のように語ります。「執事定員会の会長として、ほくは執事の兄弟たちに周りの人を教会に連れて来るように励ましています。誘惑と闘うためにはだれでも主の助けが必要だからです。ほくたちは聖餐会が始まる前に教会に来て、その日の聖餐式がうまくいくようにお祈りをします。教会に来ていない定員会の会員も訪問します。みんながどうしているのか知りたいんです。」

「聖餐式で責任を果たすことは、ワードの会員に対する大切な奉仕です。」17歳のアレックス・アランシビアはそう言います。「ひざまずいて聖餐の祈りをささげるときはいつもすばらしい気持ちになります。会員が聖約を新たにできるよう助けっていると感じるからです。自分がしていることを主が認めてくださっているという気持ちになります。日曜日の責任のことを考

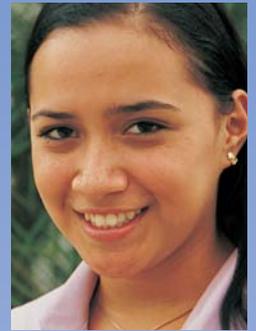
えると、その週の間、正しい選択ができるようになります。」

18歳のオルメド・ロルダンは、伝道とは友情がもたらす自然の結果だと思っています。オルメドは言います。「バプテスマを受けた何日か後で、ある若い男性の記事を『リアホナ』で読みました。その子はバプテスマを受けたばかりだというのにも専任宣教師を助けていたのです。そこでほくも次の日、宣教師の手伝いをしました。非常にすばらしい経験でした。今は監督からワード宣教師に召され、専任宣教師になる準備をしています。ほくは伝道活動のおかげで教会を見いだしました。たくさんの方が教会を必要とし、探しています。ほくたちには、だれかが教会を見つける手助けができます。」

「わたしには召しがありません。」オルメドの14歳の妹グリマネサはそう言います。「でも教会に来た人と友達になることで伝道活動を手伝っています。14か月前はわたしも新会員でした。だから友達に助けてもらうことがどんなに大切か知っています。教会に初めて来た女の子がいたら、わたしはその子の隣に座って、仲良くなって、続けて福音を学ぶように励まします。そして若い女性のクラスに誘うんです。」

どんなことにも対処できるよう備える

「青少年のころは、世界を変えたいと思うことがあります。でも、もう少し家庭をよく見詰めて、自分を変えることから始める必要があると思います。」キトに住む17歳のディアナ・フロレスはそう言います。ディアナやエクアドルの青少年は、イエス・キリストと主の教会を生活の中心にするよう福音で教えられていることに感謝しています。ディアナはこう言います。「天のお父様はわたしたちを心から愛しておられます。そして、聖文や福音、神殿、家族など、必要なものをすべて下さいました。わたしたちはお父様の子供で、成長するためにこの地上にいることをよく知っています。また、お父様はわたしたちがどんなことにも対処できるよう備えてくださるので、いつも安心していられます。」■



ただの集まり?

「ある晩わたしは、教会のパーティーに行くか、教会員が一人もいないパーティーに行くかを決めなければなりませんでした。」グアヤキルに住む17歳のエステファニア・ゴメスはそう語ります。「そして教会のパーティーには行かないことにしたのです。パーティー会場に着くと、たばこの煙が充満していて、みんなお酒を飲んでいました。とても後悔して、寂しくなりました。常に聖霊を伴侶とできるように心がけていましたが、そこでは感じるできませんでした。聖霊は汚れた場所にはおいでにならないからです。10分後、わたしは兄に電話をして教会のパーティーに連れて行ってくれるように頼みました。」

わたしたちは、教会のパーティーや教会の友人と過ごす時間をもっと大切にする必要があります。この世のパーティーに集まるたくさんの方は『これはただの集まりだ』と言うでしょう。でも、そうではありません。ただの集まりだったはずのパーティーが、たいてい不道徳な雰囲気になっていくのです。何も良いことなんかありません。」



知恵の言葉

に

祝福されて



アジア北地域
地域七十人
中野正之

友人や知人から
どのような圧力を
受けても、
神への従順の証として、
知恵の言葉を守ろうと
決心しました。

わたしは15歳でバプテスマを受けました。求道者だったときに、知恵の言葉について教わりました。それは1833年に預言者ジョセフ・スミスに啓示された戒めです(教義と聖約89章参照)。わたしは、友人や知人からどのような圧力を受けても、神への従順の証として、この戒めを守ろうと決心しました。

日本のビジネス社会では、契約を取るために営業担当者がナイトクラブやバーで接待することが習慣となっています。そのため、多くの人にとって仕事をするうえでアルコールはなくてはならないものなのです。しかしわたしは、アルコールの摂取がつまずきの石になるのを目にしてきました。深刻な病気の原因になる場合もあります。多くのビジネスマンは就業時間後も残業や接待に忙しく、家族をないがしろにしています。過度なアルコールの摂取は、ついには仕事での地位を失い、キャリアを台なしにするのです。

28歳のとき、大企業の貿易部の部長と会う

機会がありました。コーヒーが出されました。わたしは自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることと、アルコール性飲料、コーヒー、茶、たばこを口にしないことを説明し、丁寧に断りました。この貿易部長はすぐにそのことを受け入れてくれました。そればかりか、わたしの信仰を称賛してくれたのです。

それ以来わたしは顧客と商談する必要のあるときは、レストランで夕食を食べるだけになっています。バーに同行するように言われたことはありません。クリスマスの時節には、イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスディナーショーに招待します。そのようなときに福音を伝えられることがよくあります。

社内や同業者の間では、わたしが教会員であるということはよく知られています。そして教会員であることを知ってもらっていることが、仕事上の成功につながっていると確信しています。わたしは主が律法に従う者に与えられた約束を固く信じています。

「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。

また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち

隠された宝さえ見いだすであろう。

「また、走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」
(教義と聖約89:18-20)

わたしには知恵の言葉について強い証があります。この原則に従うことで受けてきた数々の祝福に感謝しています。周りの人からのプレッシャーがどんな

ものであれ、知恵の言葉に従うなら、この偉大な啓示の終わりに約束されている祝福を受けることができると確信しています。「また、主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。(教義と聖約89:21) ■



家庭の夕べ

すばらしい伝道的手段

家族とともに過ごす夕べは、福音を人に伝える自然な方法になります。

末日聖徒の中には、家族や友人に福音をよりよく伝えることのできる方法を探している人がたくさんいます。ここでは、預言者の勧めに従って家庭の夕べを開いたおかげで、家族のきずなが強くなったばかりでなく、人に福音を紹介することもできた会員の話を紹介します。

家族の中で一人だけの会員

家族の中で自分だけが教会員というのは、簡単なことではありません。わたしは、教会について学んできたことを家族に伝える方法を探し求めていましたが、改宗させるつもりだろうと家族に非難されるのではないかと恐れていました。うまくいだろうかという疑念にさいなまれもしました。家族に福音を伝えるよう主が望んでおられることは分かっていたのですが、1年以上もの間、家庭の夕べのことを言い出す勇气がありませんでした。

でもついに恐怖で胸をドキドキさせ、勇氣と力を主に祈り求めながら、家庭の夕べを開こうと家族に持ちかけました。驚いたことに、家族はこの提案に大賛成でした。そして家族の関係は、今までになくよいものになりました。

家庭の夕べを通して、母から3歳のめいに至るまで、家族全員に福音や証^{あかし}を伝えることができました。一緒にモルモン書を読み、書いてあることは確かにほんとうだという皆の言葉を聞くのはすばらしい祝福です。おまけに宣教師が来ることも家族は歓迎してくれたので、宣教師に聖文学習を手伝っ

てもらうこともできました。

最高の祝福は、仕事や学校その他の用事で忙しい中、家族が必ず毎週月曜日に集まり、1時間を割いて主について学んでくれていることです。笑ったり歌ったり、一緒にひざまずいて祈ったりすることによって、家庭に大いなる愛と平安がもたらされました。

オンタリオ州トロントステーク、ドンバレーワード、アーレーン・プライス

定着化への道

バプテスマを受けたときの喜びは今でも忘れません。しかし、その後間もなく、当時つきあっていた何人かの人たちから離れてもっと良い友達を作った方がいいと宣教師に言われ、気落ちしてしまいました。当時18歳の高校3年生だったわたしには酷な言葉のように思われましたが、宣教師を信じてその言葉に従いました。

教会の中で友達を作る必要があることが分かっていた宣教師は、すぐにワードの会員の家庭の夕べに参加するよう誘ってくれました。新しい信仰について理解を深めたい気持ちが強かったので、わたしは喜んでシャッファー家に行きました。

シャッファー家は居心地のよいところでした。くつろいだ雰囲気のある家庭の夕べを通して、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になることはどのようなことかを知りました。シャッファー家の家庭の夕べに何度も参加し、会員になって

1年が過ぎたころ、専任宣教師として奉仕する召しを受け入れました。

父は教会に反感を持っていたので、わたしが伝道に出ることには反対でした。わたしは父をシャッファー家の人たちに任せて伝道に出ました。それからまだ4か月しかたないうちに、父からバプテスマを受けることにしたという手紙を受け取りました。奇跡だとしか言いようがありません。

シャッファー家の人たちは、わたしと同じように父を家庭の夕べに招き入れてくれました。その努力のおかげで父は福音を無理なく理解し、改宗したのです。

テネシー州メンフィス北ステーク、コルドバワード、ルーベン・ペレス



伝道中に、
バプテスマを
受けることにした
という父からの手紙を
受け取りました。
そもそもの始まりは、
シャッファー家で
毎週開かれていた
家庭の夕べでした。



家庭の夕べで
聖霊について
レッスンして
いるとき、わたしたちは
御霊を強く感じました。
これを機に
夫は変わったのです。

御霊を感じて

バプテスマを受けて教会に入ってから10年になりましたが、9年間は教会にあまり行きませんでした。その間に結婚し、娘が7歳になりました。一緒に住んでいた母やきょうだいに友人が再び教会を紹介し、我が家に宣教師が来るようになりました。わたしにはジョセフ・スミスとモルモン書に対する証はありましたが、教会に関する知識は消えかけていました。

夫は宣教師と親しくなり、気がつくや福音のレッスンを受け始めていました。一つのレッスンに約1週間かかりました。イエス・キリストが神の御子であることを受け入れるのは難しかったのです。福音を学び始めてから9か月たっても、夫は祈りの答えがないと感じていました。

ある日の朝、やって来た宣教師たちとともに夫のために祈っていると、聖霊の影響力に気づくように助ける必要があると強く感じました。宣教

師が家庭の夕べのテキストを置いていってくれたので、次の月曜日、夫や娘と一緒に初めて家庭の夕べを開き、聖霊についてレッスンをしました。聖霊について深く考えながら夫は黙って耳を傾けていました。御霊の力が強く働きかけ、この教会が真実の教会だという確信を聖霊が与えてくださっていることが分かりました。長い間感じていなかった感覚でした。翌日夫はわたしに証して、御霊が自分に証するのが分かったと言いました。あの家庭の夕べで、永遠に消えることのない火がわたしたちの心にともされたのです。

1週間後に夫はバプテスマを受け、1年後わたしたちはブラジル・サンパウロ神殿で結び固めを受けました。聖餐会は出席すべきいちばん大切な集会ですが、次に大切な集会は家庭の夕べだと、わたしたちは感じています。

ウルグアイ・モンテビデオ北ステーク、レジカワード、
エリザベス・デュセ・デ・メルニエス



家庭の夕べを開く人に 与えられる約束

「わたしたちは、週
に1度〔月曜日の夜に〕
教会全体で家庭の夕
べというプログラムを

行っており、両親が子供たちと一緒に時間を過ごします。この時間には、家族で聖文を研究し、家族の問題について話し合い、家族の活動などを計画します。わたしは躊躇せず^{ちゆうちよ}に申しませんが、世界中のすべての家族がこの一つのことを実行するならば、世界中の家族の結束に大きな違いが生まれることでしょう。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
「家庭の夕べ」『リアホナ』2003年3月号, 3

改宗させるためではなく

家族が互いに愛し合い、ともに成長するのを助けるために、家庭の夕べが大切であるということは新しい夫にもわたしにも分かっていました。しかし、子供たちは成長して家から独立しており、実際に開くのは難しいことでした。ところが、夫の母親を家に招待することにしてから、状況は変わってきました。当時義母は74歳で、別の教会の会員でした。花屋で働いており、職場と家との往復以外にあえて何かをしようとすることはありませんでした。

義母はこの教会のことを知らないため最初はためらっていましたが、今では月曜日の夜が来るのを楽しみにしています。一緒に夕食を食べ、笑ったり歌ったりするうちに、わたしたちは非常に打ち解けてきました。改宗させられたくないという気持ちがあることは分かりましたが、義母はわたしたちが信仰について話すことには寛容でした。ある月曜日の晩にわたしが教会の指導者の話を読んだとき、皆御霊を感じました。『エンサイン』(Ensign)を見せると、義母はすべてのページに目を通していました。わたしたちは神殿について教え、一緒に教会のビデオを見ました。御霊の導くままに、時々このようなことをしたのです。

あるとき、家庭の夕べでレッスンをしてくれないかと頼んだところ、義母は自分の若いころの写真や夫が赤ちゃんのときの写真を持って来てくれました。おじやおば、祖母や祖父の話も聞かせてくれました。こうした昔の経験を話す義母の幸せそうな目を見て、胸がいっぱいになりました。家庭の夕べを開くようにという戒めは天の御父の教えであるということが、そのとき分かりました。

義母には福音について学ぶ機会が繰り返しあります。この世で生きているうちに教会員になるかどうかは分かりませんが、家族が強められ、愛が深められたことは確かです。

バージニア州ハンティントン西ステーク、ローガンワード
ダニー・ジェーン・スティーブンス

7歳の宣教師

ある月曜日、夜も更けたところに夫とわたしが家事に追われていると、7歳の息子のセルヒオが顔を出しました。「なーんだ、だれも家庭の夕べのことを覚えていないんだ。興味ないんだね。」

帰宅の遅かった夫は、今日はとても忙しかったし、寝る前に片付けなければならぬことがまだたくさんあるのだと、疲れ切った顔で説明しました。わたしたちは手を休めませんでした。

すると、セルヒオがたった一人で絵入りの『モルモン書ものがたり』を読んでいることに気がつき、夫とわたしは顔を見合わせました。夜が更けたとはいえ、家庭の夕べをやめるべきではないと夫の目は語っています。わたしも同じ気持ちでした。

居間に行くと、セルヒオは大まじめで言いました。「気にしないでいいよ。ぼくはもう『個人の家庭の夕べ』を開会して、賛美歌も歌ったし、お祈りもしたんだから。今はレッスンをしているところだよ。」夫とわたしはそのまま息子が語る最初の示現の話に耳を傾けました。

そのときの息子は、わたしたちにとって、家庭の夕べは大切だと証する立派な宣教師でした。自分ではあまり実践していない原則を教えようとするのが往々にしてあるということに、夫とわたしは気づかされました。この「個人の家庭の夕べ」に参加していなければ、何というすばらしい経験を見逃していたことでしょう。■

ペルー・リマ・マランガステーク、マランガワード、セシラ・ロサーダ

家族を強める

生殖の神聖な力

このシリーズは、「家族——世界への宣言」の
個人的な学習と活用へのヒントを与えるものです。

「神の戒め〔によれば、〕生殖の神聖な力は、
法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間
においてのみ用いるべきです。」¹

力と計画

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老は次のように説明しました。「わたしたちが賛同した神の計画の下に、アダムとエバがわたしたちの最初の両親として地上に送られました。彼らは、この地上にやって来る最初の霊の肉体を用意することができました。

わたしたちの肉体には、神聖な創造の力が備えられました。さながら火に、物を燃やし新たな火をおこす力があるのと同じように。この賜物^{たまもの}は、ただ神聖な結婚のきずなの中でのみ用いられるべきものでした。この力を行使する

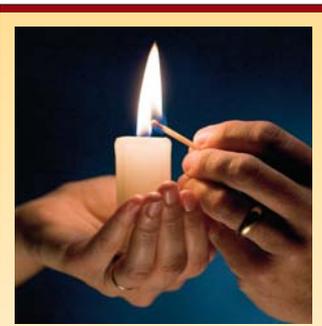


ことにより、肉体が創造され、霊がそこに宿り、新しい命がこの世に生まれるのです。

この力は善きものです。それによって家庭が作られ、維持されるのであり、幸福の源は家族生活の中に見いだされるのです。この力は、

事実上この世に生を受けたすべての人に与えられています。それは神聖で重要な力です。……

創造の力、すなわち生殖の力は、単に神の計画に付随する事柄ではなく、その計画に不可欠なものです。この力なしに、計画は実施できませんでした。この力を誤って用いることは、計画を崩壊させることになります。」²



道徳的な選択の自由と純潔

もちろん、計画の妨害はサタンの目指すところであり、生殖の力の乱用を助長することは、サタンの戦略の中でも最も世に蔓延し、成功している戦術の一つです。テレンス・D・オルソンはこのように記しています。「人間の性的欲求は、人の究極の必要物とまではいかなくとも、人間のあらゆる営みの原動力であるかのように大衆文化の中に位置を占めている。大衆文化が正しいとすれば、性欲は抵抗し難い力を持っており、社会は性の定期的かつ頻繁な表現を容認する方法を見いだす必要がある。実に……大衆文化は、人間を性的な欲求と感情のとりこ見なしているのだ。」³

しかし、聖文には、これとは異なった教えが書かれています。リーハイは息子のヤコブにこのように教えました。「人の子らは墮落から贖われているので、すでにとこしえに自由となり、善悪を知るようになっていく。彼らは……大いなる終わりの日に律法に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に依じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」(2ニーファイ2:26-27)

この純潔の問題に関して言うと、人は肉体の意のままになってしまふわけではありません。人は道徳的な選択の自由を備えており、まことしやかに「必要物」であるかのように語られている性も、わたしたちが現世で直面するほかのすべての選択と変わらないものなのです。従順と霊の命を選択することも、捕らわれ、惨めな有様ありさまになり、霊的な死を選択することも、わたしたちに任されているのです。

従うべき3つの理由

ブリガム・ヤング大学の学長を務めていたとき、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、純潔を選ぶべき3つの理由を提示しました。第1に、聖文によれば、人は肉体と霊により構成されています(教義と聖約88:15参照)。「だれかの魂(ここに「肉体」という言葉を当てはめてください)を軽々しく扱うことは、すなわち贖罪を軽々しく扱うことにほかならないのです……。ですから、無知と反抗心から『でも、

**「わたしたちの
肉体には、
神聖な創造の力が
備えられました。
さながら火に、物を燃やし
新たな火をおこす力が
あるのと同じように。」**

わたしの人生だから』と言ったり、さらには『ぼくの体じゃないか』と言ったりすることはできません。自分の人生、自分の体ではないからです。パウロは言いました。『あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。』[1コリント6:19-20]」⁴

「第2に、人間の男女間の……性的な交わりは、全面的な一致と結合の象徴であると申し上げます。すなわち、心と望み、人生、愛、家族、将来、および当人同士が所有するその他すべてのものの結合の象徴なのです。……しかし、そのような全面的な結合は……結婚の

聖約による親密さと永続性の下でのみ可能となります。結婚の聖約とはすなわち、心や精神、人生、夢など所有するものすべての結合にほかならないからです。……所有物を共有し、肉体的に結合することにより一つであるかのように装う一方で、……本来の義務である全面的結合のほかのすべての側面を……避けることから生じる道徳的矛盾にお気づきでしょうか。」⁵

第3に、「性的な交わりは、男女の結合の象徴、つまり人同士の結合であるのみならず……人間と神の結合の象徴でもあるのです。それは、神御自身と、この広大な宇宙に命を与えるために神が用いられるすべての力とが結合する、比類ない特別な瞬間です。……次の世代を築くためのこの賜物に人々が敬意を払わないことにより、人々は神からの信頼を、間違いなく損ねています。……わたしたちは、だれもがこの生殖の力を授かっています。それは、一つの壮大で威厳ある方法でわたしたちを神に似た者としてくれるのです。」⁶

御心になつた理由によって、靈感を受けた主の教会の預言者はこう明言しました。「わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。」⁷ ■

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. 「なぜ清くあるべきか」『聖徒の道』1973年1月号, 15参照
3. “Chastity and Fidelity in Marriage and Family Relationships” デビッド・C・ドライト編, *Strengthening Our Families: An In-Depth Look at the Proclamation on the Family* (2000年), 51
4. “Of Souls, Symbols, and Sacraments” *Brigham Young University 1987-88 Devotional and Fireside Speeches* (1988年), 78-79
5. “Of Souls, Symbols, and Sacraments” 79-80
6. “Of Souls, Symbols, and Sacraments” 82, 84
7. 「リアホナ」2004年10月号, 49

大祭司 定員会



神権定員会とその目的に関する シリーズの第5回

七十人会長会
デビッド・E・ソレンセン

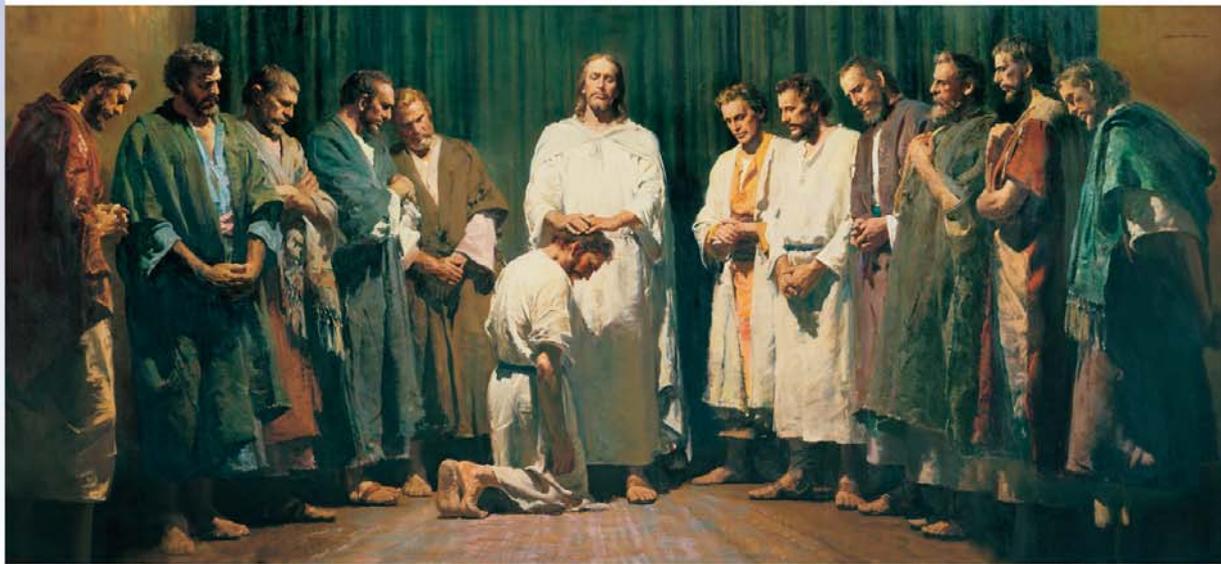
メ ルキゼデク神権の大祭司に聖任されることは、大きな榮譽であると同時に重い責任を引き受けることでもあります。なぜなら救い主御自身がこの職を持つ者の模範であられるからです。使徒パウロはヘブル人への手紙の中でこう書き記しています。「大祭司なるものはすべて、人間の中から選ばれて……人々のために神に仕える役に任じられた者である。……かつ、だれもこの榮譽ある務^{つとめ}を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。同様に、キリストもまた、

大祭司の榮譽を自分で得たのではなく、『あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ……あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である』[とされたかたから、お受けになったのである。]』（ヘブル5：1，4-6参照）救い主がこの榮譽ある務めを御自分で得たのではなく、神の召しによって受けられたように、主の教会の大祭司もすべて、その務めを神によって受けます。大祭司の務めとは、救い主の模範に従って生活することであり、自らの言葉と行いを通して主の恵み深い贖罪^{しよくざい}と主の福音の真理を^{あかし}証する証人となることです。

歴史的な経緯

人類の歴史上いつの時代においても、完全な福音が地上に存在していたときには、主は^{みわざ}御業を管理する大祭司を召してこられました。

現世で務めを果たしておられた間、イエス・キリストは地上における管理大祭司であられました。大祭司の責任は、イエス・キリストの模範に従って生活することです。



● アダム、エノク、ノア、メルキゼデク、アブラハム、モーセ、また、ほかにも多くの義人が大祭司に聖任されました(アルマ13章; 教義と聖約84:6-17; 107:41-53参照)。

● モーセの時代以後、主は忠実な数人の男性にメルキゼデク神権を授けられました。それ以外は地上からメルキゼデク神権を取り上げられました。

● モルモン書の民の間では、大祭司は霊的な事柄を管理する権能を持っていました(アルマ8:23; 30:20-23参照)。

● 現世で務めを果たしておられた間、イエス・キリストは地上における管理大祭司であられました(ヘブル3:1参照)。救い主は大いなる大祭司として永遠の犠牲をささげ、「永遠のあがないを全うされた」のです(ヘブル9:11-12参照)。主は現在も引き続き教会を管理しておられます。

● 時満ちる神権時代において、大祭司への聖任が初めて行われたのは、1831年6月でした。その日、オハイオ州カートランドで教会の大会が開かれ、23人の男性が大祭司に聖任されました。

● 各ワードに大祭司定員会が組織されていたころには、それぞれの定員会に会長会が組織されていました。しかし1877年、ブリガム・ヤング大管長は、亡くなる少し前に、ステーキ会長が大祭司定員会を管理する責任を持つようにという指示を出しました。

● 1956年から、各ステーキ会長は、ステーキ大祭司定員会会長としての務めを果たすようになりました。

● 1975年12月、大管長会は以下の点を明確にしました。すなわち各ワードの大祭司グループはステーキ大祭司定員会に所属するものとし、ステーキ会長が定員会会長、ステーキ副会長が定員会副会長となるということです。各ワードの大祭司グループリーダーはステーキ会長の指示の下で働きます。

大祭司定員会の義務

ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)はこう言いました。「大祭司定員会の義務とは何でしょう。それは神の王国における統治の原則を教えることです。また、王国における一致の原則、進歩の原則、成長の原則を教えます。まさに大祭司とはすべての人々を教え導く指導者なのです。大祭司定員会には、ステーキ会長と副会長、監督と副監督、祝福師、そしてメルキゼデク神権の大祭司の職に聖任されたすべての人たちが含まれています。……大祭司



大祭司のおもな責任の一つは、ホームティーチャーとして働くことです。ですから大祭司は「主と監督、……グループの指導者を代表します。」

定員会は一つとなり、善のために分かち合うことのできるあらゆる力を提供しなければなりません。』¹

大祭司の責任

「大祭司の権限と責任は、管理することと、長老の持つすべての権限を持つことです(教義と聖約107:10参照)。大祭司への聖任は、ステーキ会長会、高等評議会、監督会に召されたとき、またはステーキ会長が適切と認めるときに行われます。』²

大祭司は大いなる信頼を得るにふさわしくなければなりません。神権のこの職に召される人は、信仰深く、正直かつ誠実でなければなりません。信頼でき、教会に対して献身的でなければなりません。いかなる状況にあっても福音を擁護するという点で、信頼に足る人物でなければならぬのです。

大祭司のおもな責任の一つは、ホームティーチャーとして働くことです。ですから大祭司は、「主と監督、……グループの指導者を代表します。ホームティーチャーは、訪問する家族の全員を支え、彼らに仕えます。真の関心と愛を示し、友情を培い、敬意を深めます。……ホームティー

チャーは、会員にとって教会における第一の助け手です。ホームティーチャーはその家族の必要と、最も役立つ方法について家長と相談します。会員が失業、病気、孤独、引っ越し、その他の必要を抱えているときには助けを申し出る」³のです。

ジョセフ・F・スミス大管長はこう教えています。「すべての大祭司は、年長者や若者に模範を示すべきです。そして……義の教師としてふさわしくあり、勧告だけでなく、特に模範によって教えるべきです。長年積み重ねてきた経験によって、若い人々を祝福するのです。そうすることによって、個人として、自分の住む地域の力となります。…大祭司の職を有する人たちは、一般的に年長者であり、豊かな経験があります。……その経験は……長年にわたる教会での奉仕を通じて得たものです。大祭司は交わる人皆を祝福するために、その知恵を用いなければなりません」⁴

神殿・家族歴史活動に関する大祭司の役割

大祭司グループリーダーと大祭司定員会の会員は、神殿・家族歴史活動において模範を示します。状況が許すかぎり定期的に神殿に参入することもその一つです。大祭司は会員が神殿の儀式を受ける準備ができるように助けます。また、亡くなった親族の記録を調べ、神殿で身代わりの儀式が執行できるようにすることを奨励します。長老定員会会長と大祭司「グループの指導者は、神権会とホームティーチングにおいて、死者の^{あがな}贖いに関する教義、原則、祝福が定期的に教えられるようにします。また、子供たちに神殿の大切さを教えるよう会員に奨励します。…監督会の指示により、大祭司グループリーダーはワードにおける神殿・家族歴史活動を調整します」⁵

大祭司は福音に精通しており、管理する能力がある人です。大祭司は、経験の浅い兄弟、特にアロン神権者に模範を示します。大祭司は、ほかの神権者と一緒に「教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、教会員を見守り」ます（教義と聖約20：42）。大祭司は、それぞれのワード、支部、地方部、ステークを安定させる大きな力であり、

福音を^の宣べ伝え、聖徒を完全な者とし、死者を贖うという側面を持つ教会の使命の助け手なのです。大祭司は特に家族の族長であり、模範を示し、後の世代のために義の模範を確立するのです。■

注

1. Conference Report, 1907年4月, 5
2. 『教会指導手引き 第2部 神権指導者, 補助組織指導者』166参照
3. 『教会指導手引き 第2部』173参照
4. Conference Report, 1908年4月, 5-6
5. 『教会指導手引き 第2部』169, 268参照



兄弟愛の炎

ラリー・ポーター・ガント

教会機関誌

ミッチ・ダンフォードはカリフォルニア州サンティーステーク、サンティー第1ワードの大祭司グループに、転入以来約11年間所属してきました。「大祭司グループでは、聖文学習や伝道活動を一緒に行っています。こうすることで、互いを、また互いの家族を、祝福してきました。互いに神権の召しを尊ぶ助けをした結果、自然に友情が生まれたのです」と彼は言います。

2003年10月26日の日曜日の夜、サンティーステークの大祭司たちは、サンディエゴ郡のほとんどの住民とともに、カリフォルニア史上最悪の山火事に襲われました。時速50-70マイル(時速約80-110キロ〔訳注——風速22-30メートル〕)の風にあおられた幅100フィート(約30メートル)の炎は24時間近く燃え続け、何百軒もの家を焼き、13人の死者を出しました。

ミッチ・ダンフォードは散水ホースとシャベルを手に、一人で自宅の裏山に登っていました。妻のキャシーと5人の子供たちを連れて、一時ホテルに非難していましたが、避難命令が解除されたため、自分だけが自宅の様子を見に戻ったのです。

ダンフォード兄弟はこう語ります。「火事の炎は4フィート(約1.2メートル)の高さに達し、30フィート(約9メートル)の幅になっていました。火は2方向からやって来ますが、辺りは異様に静まり返っています。わたしは、たった一人でこの火事を食い止めるなんてとうていできないと悲嘆に暮れて立ちすくんでいました。」

そのころ、クリス・オールレッドステーキ会長は、ステーキセンターの最上階から双眼鏡で火事の状況を見守っていました。そして炎がダンフォード家に近づいていることが分かったと、あちこちに電話をかけ始めました。

「わたしは一人きりでした。」ダンフォード兄弟の声が上ずります。「そのときです。一人また一人と、シャベルを手にした定員会の『仲間』とその息子たちが現れたのです。感謝で胸がいっぱいになりましたが、彼らはそうすることが当たり前のような態度でした。」

それから15分後に、最初の大きな炎が襲って来ました。

「火をシャベルでたたき消してから、土をかけました」と語るのは、父親のランドール・スキンプ監督と一緒に来た15歳のスティーブン・スキンプです。

最初の炎が収まると、また次の炎がやって来ましたが、それも食い止めました。

ある報道カメラマンがこの様子を撮影しに山に登って来て驚いていました。そこにいたのが、教会の仲間を助けようとする何人かの普通の男性たちだったからです。

「神権者の兄弟たちが家を救ってくれたことに、心底、感激しました。」ダンフォード兄弟は続けます。「こういうことは教会では当たり前に行われているのに、近所の人たちは、彼らがさっと駆けつけてくれたことが信じられなかったようです。でも神権定員会の兄弟なら、何をすべきかちゃんと心得ています。」■



写真/ラリー・ポーター・ガント

じゅうぶん 什分の一とタイヤ

サラ・ウェストブルック

最近夫が転職したため、わたしたち夫婦は経済的に困難な状況に陥っていました。夫がより高い教育を受けるために合衆国陸軍に入隊したので、大幅な収入減を余儀なくされたのです。わたしたちは生活を切り詰めていましたが、なお大きな借金を抱えていました。これ以上借金を重ねないようにとクレジットカードを切り刻み、貯金を使い果たした後は、1年分の食糧貯蔵だけで生活していました。

わたしはどんなときでも福音に対する^{あかし}証をもって生きてきましたが、この時期は文字どおり信仰のみで生きていました。

あまりにもつらい1か月が過ぎるころには、請求書の山に気持ちはひるみ、これではどうていやっていけないという状況でした。大人になってから初めて、什分の一を納めないでおこうという誘惑を感じました。わたしはこう思ったのです。「今は主よりもわたしの方がお金を必要としているのよ。わたしが納める什分の一の金額なんて、ステーキセンターの電気代にも満たないけれど、わたしにとって、あるとないとは全然違う金額なのだから。」

そのお金の使い道を自分勝手に考えていたとき、ある聖句が心に浮かびました。「人は

神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。」(マラキ3:8) わたしは什分の一を納めなくてはならないことを悟りました。生活はきっとどうにかなるでしょう。わたしは什分の一を納めるために小切手を書き、封筒に切手をはって郵送しました。

翌日は、外出する用がありました。車で歩いて行くと、タイヤの一つがパンクして、空気がほとんど抜けていることに気づき、愕然としました。わたしはいらだちながら、近くの修理工場まで車を走らせました。

パンクの修理には数ドルかかります。

わたしは待合室に腰を下ろして、わたしたちを見守ってくださるよう天の御父に祈りました。しばらくして係員に呼ばれてレジに行きました。「タイヤの中に釘が見つかったのですが、釘の刺さっている位置が悪いので、修理ができません」と、係員は言いました。新しいタイヤと交換しなければならないのですが、それにはわたしが覚悟していた以上のお金がかかります。「ではその釘を見せてください」と、わたしは言いました。係員はよく分かるように釘を示しながら、なぜタイヤの修理が不可能なのか説明してくれました。

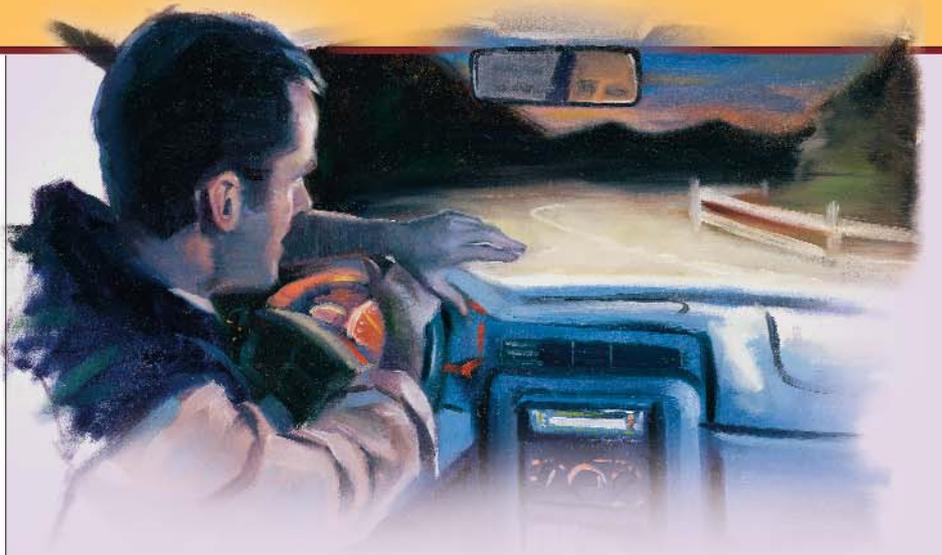
わたしは目に涙を浮かべながら、いちばん安いタイヤと交換してほしいと頼みました。

わたしは待合室に戻り、静かに天の御父に助けを願い求めました。新しいタイヤを買う余裕などありませんが、車なしでは生活できないのです。

しばらくして、また係員に呼ばれてレジに行きました。タイヤにはロックナットが付いていて、特別な工具がなければ外せないと言われました。わたしは鍵を持っ

係員は
よく分かる
ように
釘を見せながら、
なぜタイヤの修理が
不可能なのか
説明してくれました。





ていないことを伝えました。係員は謝りながら、店にはタイヤを外す道具がないことを説明し、別の店を紹介してくれました。そして無料でタイヤに空気を入れ、わたしを送り出しました。

わたしは車に乗り込むと、泣きだしてしまいました。どうしてこんなことになるのでしょうか。正しいことはすべて行ってきました。什分の一を納め、1年分の食糧貯蔵も行っていました。借金を返す努力もしていました。毎週教会にも行っていません。主はどうしてこのような状況をお許しになるのでしょうか。

わたしはもう1軒の店に行き、係員に手短かに状況を説明しました。係員と一緒にいちばん安いタイヤを選んでから、わたしは待合室に行きました。まるで永遠のように思える時間が過ぎ、ようやくわたしの名前が呼ばれました。これから聞かされるであろう修理費にびくびくしながら、重い足取りでレジに行きました。

「わたしたちはタイヤを5回水に沈めてみました。」係員の説明が始まりました。「3人で釘を探したんですが、どこにも見当たりませんでした。まだまだこのタイヤは使えますよ。取り替える必要はまったくありません。」わたしはほんやりと係員を見詰めました。わたしはこの目で釘を確認していました。釘は確かに刺さっていたのです。わたしは係員にお礼を言い、今度もまたお金を払わず、そのまま帰って来ました。

その後わたしたちは新たな任地に引越し、そのタイヤで1万3,000キロも走ってきました。主がわたしたちを祝福くださったこと、また従順であれば平安が与えられることを知っています。■

サラ・ウェストブルックはテキサス州エルパソ、マウントフランクリンステーク、エルパソ第1ワードの会員です。

御霊の声を聴く

マーク・パレーズ

週末の連休を利用して友達を訪問するために、独りで車を走らせていました。わたしは主要幹線道路ではなく、郊外を横切る道路を利用して、少しでも近道をしようと考えていました。もうすでに日暮れ近くなっていたので、日付が変わる前には友達の家に着きたいと思ったのです。

道はととてもすいていて、ほかの車をほとんど見かけませんでした。退屈のぎにラジオをつけ、好きな音楽を聞いているとき、ラジオを止めて、耳を澄ますようにという御霊の促しを確かに受けました。初め、砂漠の道路をラジオも聞かずに運転するなんてばかげていると判断し、その促しを気に留めませんでした。しかし次第にその促しを強く感じるようになったのです。わたしは仕方なくラジオを止め、深く座り直しました。そして、「わたしは耳を澄まして聞いています」と静かに主に伝えました。

すぐに減速するように、というさらなる促しを3回、立て続けに受けました。それは以前よりもはるかに強く心に訴

えかけました。しかも感受性と集中力が高まった状態で、その促しを受けたのです。わたしは従順にブレーキを3回踏み、十分に減速しました。

やがて気づくと目の前には標識のない直角のカーブがありました。暗闇の中を走っていたわたしは、状況に対応するすべもなく、カーブを突っ切って、深い水路を見下ろす崖^{がけ}ぶちでかろうじて止まりました。震えながら車の外に出て、車の損傷を調べました。車はまったく無傷でしたが、フロントのバンパーが崖から突き出ていました。もしあと少しでも速く走っていたら、崖から落ちて、けがをするか、あるいは死に至っていたことでしょう。わたしは感謝の祈りをささげました。

残りの行程もラジオをつけずに車を走らせながら、生活の中から「ラジオ」を取り除く必要があることを痛感していました。これまでに幾度となく、霊的な事柄よりも、どうでもよいこの世のものに心を奪われてきました。今でも家や車でラジオを聞くことはありますが、一定時間ごとに音楽を止めて、耳を澄ます時間を取るようになっています。

マーク・パレーズはカリフォルニア州ロサンゼルス、サンタモニカステーク、サンタモニカ第2ワードの会員です。

懐かしさを感じました

マリナ・ペトロフ

口 シア生まれのわたしは、家族のきずなが強く愛情あふれる家庭に育ちました。両親とも仕事が忙しかったので、わたしは父方の祖母、アナスタシア・ワシルウェウナ・ウスタウシコワのもとで暮らしていました。祖母はいつも台所で忙しく働いたり、帽子に付ける花飾りを

作ったり、本を読んだりしていました。祖母はいろいろな本を読んでいましたが、とりわけ聖書を読んでいたことを覚えています。祖母は神についてよく話してくれました。またどれほど神を愛しているか、そして再び神にお会いするのをどれほど待ち望んでいるか話してくれました。さらにわたしたちが

神の戒めに従って生活するならば、神のもとに帰り、神の王国の一つを受け継ぐでしょうと教えてくれました。これらの話は、わたしにとって大切な思い出となっていました。

教会に入るまでのわたしの人生は、多くの試練や様々な経験に満ちていました。しかしわたしはいつも、簡潔で真心のこもった祖母の祈りを聞くのが好きでした。祖母が「天のお父様」という言葉で祈り始めると、わたしはわくわくしたものです。

パ プテスマの
時間が来ても、
わたしの
扁桃腺へんとうせんはひどく
はれていました。
外は寒く、息が白く
見えるほどでしたが、
わたしには
正しいことを
していることが
分かっていました。



1993年6月、わたしはサントペテルブルクにある母の家にやって来ました。滞在中友達が一緒に英語を勉強しようと誘ってくれました。新聞で見つけた番号に電話をかけると、若い女性が出ました。そしてわたしたちに翌日の正午に来るように言いました。彼女はタチアナという名前でした。レッスンの後、わたしたちはお茶かコーヒーを飲みに出かけないかとタチアナを誘いました。彼女が「わたしはお茶もコーヒーも飲まないのです」と答えたので、わたしたちはとても驚きました。

「どうしてですか。」

「わたしはモルモンだからです。」

「モルモンって何ですか」とわたしは尋ねました。

「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員なんです。もし興味があるなら、日曜日の午前11時に教会に来てください。」

タチアナは教会の住所を書いてくれました。わたしはどんな教会なのかぜひ知りたと思いました。

その週は時のたつのが遅く感じられましたが、それでもついに日曜日がやって来ました。集会はある音楽学校で開かれていました。若い男性が何人か入り口に立って、にこにこしていました。そしてわたしが初めて来たのだと分かったら、礼拝行事が行われている部屋まで連れて行ってくれました。たくさんの方がいるのですが、自分一人、場違いな所にいるような気がしました。けれど開会の賛美歌がとても気に入りました。そして奇跡が起きたのです。前に出て祈り始めた男性の最初の言葉が「天のお父様」だったので。これはまさしくわたしの探し求めてきたものでした。急に懐かしさを感じ、穏やかな気持ちになりました。

集会の後、二人の女性が近づいて来ました。

「すでに宣教師とお会いになっていきますか」と二人は尋ねました。

「いいえ。」

「福音についてお教えしてもよろしいでしょうか。」

「もちろんです。喜んで聞かせていただきます」とわたしは言いました。

福音を学んでいたあるとき、二人は3つの王国の話を始めました。わたしは彼女たちの話を遮って言いました。「わたしが小さかったころ、祖母から聞いた話をしてもいいですか。」今度は彼女たちが驚く番となりました。姉妹宣教師たちと話せば話すほど、わたしはもっと知りたいと思うようになりました。8月15日になるとバプテスマを受けたいかどうか、姉妹宣教師から尋ねられました。

「はい。」わたしはすでにそう願っていたのです。

次の日曜日である8月22日にバプテスマが予定されました。暑く、乾燥した時期です。しかし8月16日の月曜日、長雨が降り始め、気温は急激に下がりました。金曜日の朝、目が覚めると扁桃腺がひどくはれていました。のど全体に違和感があり、熱がありました。わたしは日曜日までにはよくなるだろうと思いました。

土曜日、宣教師が面接のためにやって来ました。若く、背がとても高いパーカー長老から質問を受けました。そしてわたしがバプテスマを受けることを承諾してくれました。わたしは病気のことには一切触れませんでした。

バプテスマの日が来ました。目覚めると、まだのどの状態が変わっていませんでした。そのとき、生まれて初めて主がわたしに何を望んでおられるかを悟りました。わたしは自分に言い聞かせました。「主のためにしなくてはならないことは何でもする。バプテスマを受けよう。後のことはみんなうまくいく。水は温かく、バプテスマを受

ければ病気は治るだろう。」

湖に行く途中、わたしは姉妹たちにこれまでの状況を説明しました。二人ともレインコートにくるまりながらわたしの口の中をのぞき込んで言いました。「これはかなりひどいわ。バプテスマは温水プールに変更しましょうか。」

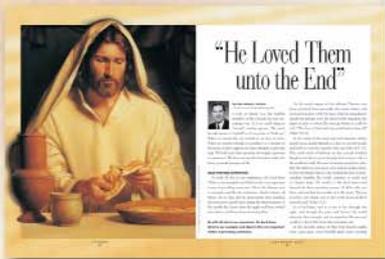
「いいえ、大丈夫です。」わたしは予定どおりにバプテスマを受けると固く決心していました。

湖に着くと、美しい風景が広がっていました。湖はさざ波すらなく、まるで鏡のようでした。更衣室から水辺までは、100メートルほどの距離でした。1週間雨が降り続いたので、地面はぬかるんでいました。更衣室から出ると、白い服を身にまとったパーカー長老がぬかるみの中を、湖に向かって確信に満ちて歩いている姿が目に入りました。それは胸を打つ光景でした。

わたしたちは輪になって、立ったまま賛美歌を歌いました。息が白く見えるほどでしたが、わたしたちはもはや天候に気を取られることはありませんでした。水に一歩足を踏み入れると、自分が正しいことをしていると実感しました。そして暖かさを感じました。水から上がったわたしは、幸福で健康そのものでした。みんなが笑い、そして泣きました。天の家に帰る道の第一歩を踏み出したのです。天の御父はわたしたちを愛しておられます。そしてわたしたちが正しい決断をし、善いことを決して疑わないよう期待しつつ、わたしたちに試練を与えてくださいます。

奇跡を経験したあのバプテスマの日をわたしは一生忘れません。祖母の思い出とともに、いつまでも心に残ることでしょう。祖母は、自分の死後、何年もたってから芽を出す種をまいてくれたのです。■

マリナ・ベトロフはベルギー・アンベルスステーク、コルトリック支部の会員です。



**あかし
証と信仰が増しました**

バプテスマを受けてからずっと、キリストから受ける愛に驚いています。キリストは決してわたしをお見捨てになりません。キリストの愛は、試練のときに希望と光と励ましを与えてくれます。ジェフリー・R・ホランド長老の「彼らを最後まで愛し通された」という説教(『リアホナ』2002年9月号, 11参照)を通して、イエス・キリストへの証と信仰を増すことができました。どんな障害や困難に直面しようとも、信仰を持ち続ける決意をすることができました。

フィリピン・ラカルロタ地方部
マンガブサン支部
マリカル・カロ

今の時代に不可欠

2004年2月号に掲載されたヘンリー・B・アイリング長老の説教「モルモン書はあなたの人生を変えてくれます」に感謝しています。わたしたちは皆、アンモンのような必要があります。アンモンは人々を教えるために遣わされましたが、その地の人々に仕え、指導者としてキリストのような模範を示しました。『リアホナ』は今の時代に不可欠なものです。『リアホナ』の中に書かれている勧告を実行するなら、この世界はより良くなっていくでしょう。

ナイジェリア・ラゴスステーク
オココマイコワード
エクボ・E・アキバ

悔い改めは平安をもたらす

ジェームズ・E・ファウスト長老による大管長会メッセージ「栄光の冠を受けるために」(『リアホナ』2004年4月号, 2参照)をまず自分一人で読み、家庭の夕べで、さらに長老定員会の集会で学びました。そのころわたしは、妻と結び固めを受けるため、神殿に参入する準備をしていました。ファウスト長老の罪と悔い改めに関する言葉を学んだとき、昔の罪を監督に告白する必要があることが分かりました。告白した後、真に悔い改める人に約束されている平安を感じました。主と主の教会に、そして今日わたしたちを導くために主がお選びになった指導者に感謝しています。

匿名

質問に答えが得られました

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になって9年たちました。初めの5年は、支部から40マイル(約70キロ)離れた村に住んでいたため、教会員と触れ合う機会はそれほど多くありませんでした。それでも『リアホナ』を通して、世界中の兄弟姉妹と触れ合うことができます。お話や証を読むときに大きな喜びを感じています。『リアホナ』の記事を通して、天の御父をより理解し、誘惑に抵抗することができます。2003年10月号の「時」と題するダリン・H・オックス長老の記事から、特に靈感を受けました。記事の中に、自分の質問に対する答えを見つけたのです。最初のページから最後のページまで、この機関誌を読むのが大好きです。

ロシア・サラトフ地方部
サラトフスキー・ザボドスコイ支部
スベトラナ・トチルキーナ



**子供のための
記事をお寄せください**

小 さな読者のために、世界中の子供たちが信仰を強めるような実話を募集します。

電子メール——

cur-liahona-imag@ldschurch.org

あて先——Children's Stories,
Liahona, Room 2420,
50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT
84150-3220, USA

氏名、住所、所属ステーク／ワード(地方部／支部)を明記してください。できれば記事の中に出てくるおもしろい人たちの写真を同封してください。よろしくお願いいたします。



「若い女性が天の御父の愛を知り、福音が真実であることをはっきりと感じるなら、心に恐れを抱くことはありません。福音に対する力強い証と永遠の教義に関する確固とした知識を持つことによって、教会の若い女性は、家族をないがしろにする世の中に敢然と立ち向かう勇気を得ることでしょう。」スーザン・W・タナー
「未来の母親を強める」16参照